

プラチナ四半期レポート

2025年第4四半期

2026年3月4日

はじめに

今回の『プラチナ四半期レポート』の内容は、2025年第4四半期の需給動向、2025年の最終予測、そして2026年の予測の更新となる。プラチナ投資家に役立つ情報、注目すべきトレンドとそれに対する我々WPICの見解、さらに我々のプロダクトパートナー各社の最新情報も取り上げた。本稿5ページからのデータおよび分析はメタルズフォーカスがWPICのために独自に作成したものである。

2025年のプラチナ市場は3年連続の供給不足となった。プラチナは2023年から毎年不足量が増え続け、2025年は33.7トン。我々がデータ収集を始めた2013年以来最大の不足幅だ。2025年を特徴づけるのは維持できないほど低い水準にまで下がった地上在庫と、世界的な政局不安で貴金属に対する投資家センチメントが好転してプラチナ価格が2倍以上も上昇したことだ。我々のこれまでの2026年の市場予測は需給バランスが均衡するというものだったが、今や2026年も7.5トンの供給不足になるという予測に変わった。これは、利食い売りが進むと考えられていたETFの保有が現在の投資家センチメントを考えるとそうならず堅調に推移すると考えられることと、貿易環境の悪化を背景に取引所在庫は高い水準を維持すると予測されるからである。

2025年のプラチナ市場の供給不足は1Moz (31.1トン)以上

- 2025年のプラチナ供給は全体で前年比1%減で224.4トン。鉱山供給は前年から4%減ったが、リサイクル供給が10%増えて一部を補った。
- 2025年のプラチナ需要は全体で前年比1%増で258.0トン。投資需要は65%、宝飾品需要は9%それぞれ増え、2018年以降で最も良好と言えるパフォーマンス、周期的な低迷にあった工業需要を十分にカバーすることができた。
- 2025年のプラチナ市場は33.7トンの供給不足となり、我々が前回の『プラチナ四半期レポート』で予測した21.5トンよりも12.1トン多くなった。ETFの保有高が伸び、取引所在庫も増加となった投資需要がその主な理由。

2026年もプラチナ市場は供給不足

- 2026年のプラチナ供給は2025年から2%増える予測。プラチナ価格の上昇で自動車触媒と宝飾品のリサイクルが増えてリサイクル供給が10%伸び、鉱山供給も安定するだろう。
- 2026年のプラチナ需要は2025年から8%減って237.0トンとなる予測。2025年は取引所在庫とETF保有高が大きく増えたが、2026年はその繰り返しとはならないだろう。
- 2026年のプラチナ市場は7.5トンの供給不足となる予測。

2014年～2026年（予測）の年間のプラチナ需給バランス(koz)



出典：2014年から2018年はSFA（オックスフォード）、2019年から2026年予測はメタルズフォーカス

プラチナ投資 – 現物の供給は非常に逼迫

2026年はプラチナ価格が25%上昇して幕が開け、1月中には 2700ドル/オンスを超えて過去最高価格に達した(インフレ率を調整した過去最高価格である 3400ドル/オンスには及ばず)。1月終わりには史上高値をつけたゴールド価格の下落に釣られてプラチナも下がったが、それでも 2000ドル/オンス近辺で下げ止まった。これは 2024年の平均価格である960ドル/オンス の2倍だ。プラチナの強いファンダメンタルズが反映されているだけでなく、世界的な政局不安要因で貴金属に対する投資家のセンチメントが好転している表れといえよう。

1月終わりのプラチナ価格の反落は、FRBの次期議長にケビン・ウォーシュ氏が指名され、ゴールドとシルバーが売られたと同時に起こった。ウォーシュ氏はインフレに対してタカ派的スタンスで知られるが、短期間ならば低金利を支持する立場のようだ。しかし、そうだとすると貴金属価格の上昇を支える世界の政局不安には大きな変化が見られず、今後もそれは変わらないだろう。それに加えてプラチナの場合は持続的な供給不足ということも投資家の強い関心を引く要因となっている。

世界の地政学的な情勢は依然不安定で不透明だ。ロシアによるウクライナ侵攻に加え、米国によるグリーンランド併合の動き、ベネズエラの政権交代、イランでの抗議活動などが新たな不安材料として加わった。世界経済もインフレの沈静化、年内数回あると予測されている米国の金利引き下げ、トランプ政権が推し進める貿易政策などで揺れ動く。これら全てが米ドルの弱体化とコモディティ・貴金属価格の上昇につながっている。さらに貴金属は、「米国売り」トレードとドル安を加速させる「アメリカファースト」、「大きく美しい法案」に関連する財政的影響や不確実性の恩恵を受ける。ダウジョーンズ工業株価平均がトランプ前政権時から15%上がって5万ドルに達したことが大きく報じられたが、実際のところ同時期にMSCI ワールド・トータルリターン・インデックス(米国を除く)は38%以上も上がっている。さらに、米国の通商拡大法232条調査を受けて今後の先行きは読めなくなっており、米国内、特にCME 保管庫にプラチナを保管する動きが増えているため、プラチナの不足に拍車がかかっている。

我々の 2026年の予測には含まれていないが、プラチナ不足をさらに加速させる要因の一つに広州先物取引所(GFEX) の在庫がある。まだ未公表のこのデータは、最初に上場された先物契約満期近くの6月には発表される予定で、公表され次第、CME や OSE の取引所在庫同様に我々のプラチナ市場データに取り組みされる。GFEX でプラチナ先物商品の取引が始まったことで、中国のエンドユーザーは初めて現地通貨建てで価格リスクのヘッジができ、投資家のプラチナへのアクセスも可能になった。現在は上海黄金交易所ではできない双方向取引も今後はできるようなるかもしれない。GFEX は現物決済のデリバティブを通じた効率的なプラチナ投資の場を提供することになったが、その一方で、中国では大型バーを含むプラチナインゴットとコインの市場も非常に活況で、2026年の需要は15% 増えて過去最高となる予測だ。世界的に旺盛なプラチナの投資需要は、我々が2026年の予測を修正することになった大きな理由でもある。プラチナ ETFはこれまでの予測では価格上昇とともに利益確定売りで 5.3トンの資金流出が見込まれていたが、今の時点では 2026年を通じて安定して推移するとの予測に変わった。

プラチナの投資需要は2025年に 33.7トンもプラチナが不足した主な原因でもあり、再び2026年に 7.5トンの供給不足をもたらす要因でもある。投資家は現物資産を求めているだけでなく、プラチナのファンダメンタルズの強さを評価している。2023年から続くプラチナ不足は今や 3 Moz(93.3トン)近くに達し、地上在庫は維持できないほど低い水準にある。これがプラチナの価格を押し上げ、先物市場の強いバックワーデーションをもたらすわけだが、一つここで特記すべきなのは、リースレートの上昇を受けて、エンドユーザー、特に大手工業ユーザーがプラチナのリースから所有へというシフトが明確に進んでいる点で、この動きは昨年5月以降の価格上昇と時を同じくして始まっている。

プラチナの供給と需要

2025年第4四半期に供給不足が拡大し、2025年の供給不足は過去最大

33.7トンという2025年のプラチナ市場の供給不足は、我々のデータ収集開始以来最も多いが、第2位はその前年2024年の28.6トンだった。2025年はプラチナ供給が前年比で1%減り需要が前年比1%増えた。

2025年第4四半期のプラチナの供給不足は 6.2トンとなり2025年全体の不足幅を押し上げた。それをもたらした要因の多くは、そのまま2026年の展望の土台でもある。2025年第4四半期のプラチナ供給は、4年ぶりに鉱山供給が6%伸び、リサイクル供給も15%増えて前年同期比で8%増えた。リサイクル供給が伸びたのは、2025年第2四半期にプラチナ価格が低かった時期に在庫を増やした中国の宝飾品卸売メーカーが、その在庫を売却し宝飾品のリサイクルが増えたからだ。

しかし、第4四半期の供給の伸びを上回ったのが需要で、前年比 3% 伸び、第4四半期としては過去最高となった。自動車、宝飾品、工業需要はわずかに減ったが、投資需要が前年比で 29% も伸び、十分に減少分を補った。

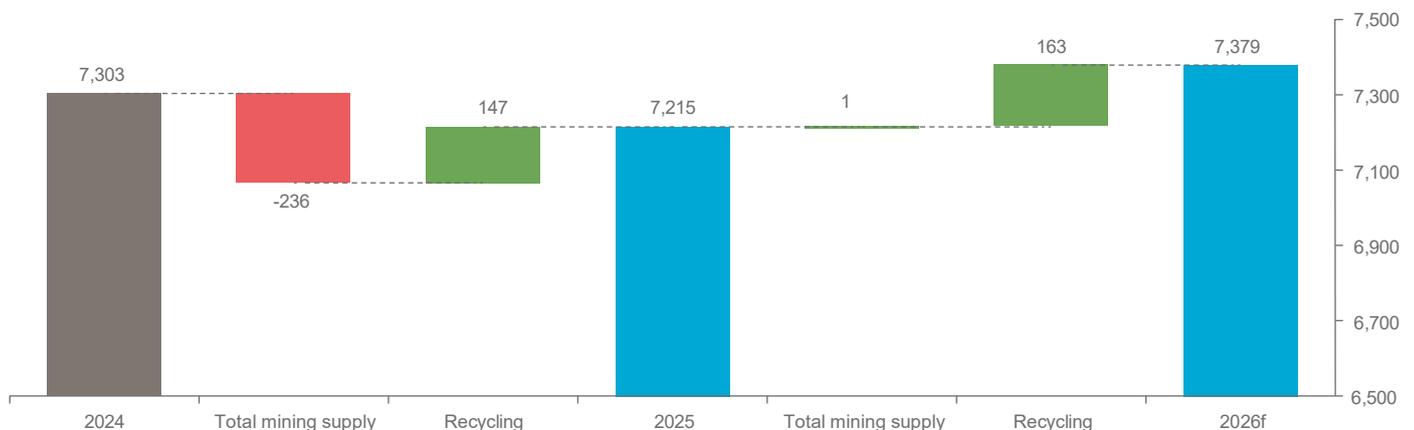
次に2025年全体を見ると、リサイクル供給は 10% 増えたが、鉱山生産は4% 減った。鉱山生産が減ったのは南アフリカの生産会社が仕掛かり在庫の処理が続けられなくなったこと、米国でコストの高い鉱山の合理化が行われたことなどによる。2025年は鉱山生産拡大に必要な設備投資の削減が続く、コロナ禍に見舞われた2020年を除く2014年来最も低い生産水準となった。一方で、プラチナ需要は 1% 増えたが、その内訳は、工業需要はマイナス21%、投資需要はプラス65%という反対の動きがあった。ガラス産業は周期的な事情から需要が74%減ったが、投資の需要はプラチナの良いファンダメンタルズと現物資産としての需要で大きく伸びた。また、電気自動車の普及目標が緩和された影響は、まだ小さいものの需要のテーマとしては重要な点であるため、前回の『プラチナ四半期レポート』で発表した2025年の自動車需要の予測を 0.46トン上方修正した。

2026年のプラチナの供給不足は再び構造的要因が背景に

2026年の需給予測は昨年、プラチナ価格が2倍以上も上がった市場を反映している。需要は4年ぶりに低くなり、供給は5年ぶりの高い水準になる予測で、市場では需要の3%に当たる7.5トンのプラチナが不足するだろう。

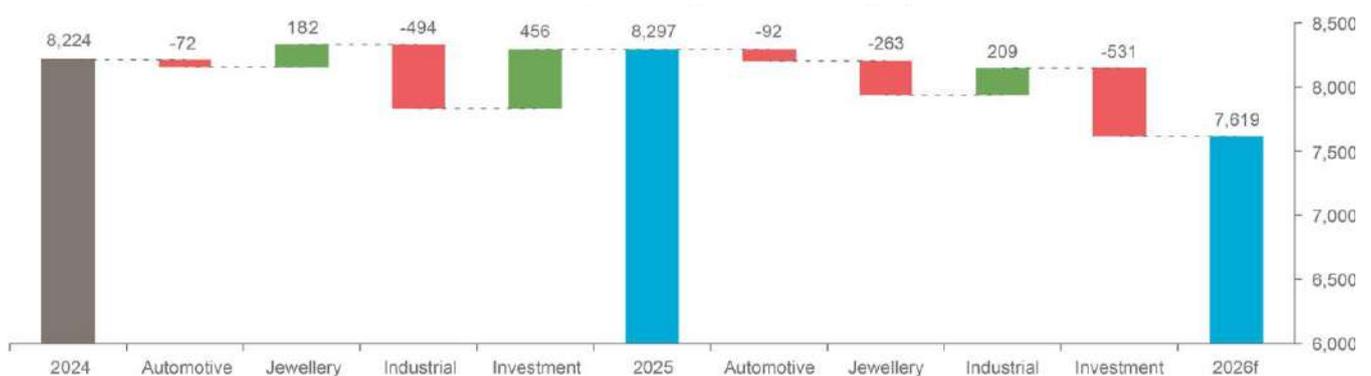
2026年のプラチナ供給は前年比で 2% 増えて 229.5 トンになるだろう。これはプラチナ価格に対して敏感なりサイクル供給が前年比 10% 増えるからで、鉱山生産はそれほど価格弾力性が高くないため、南アフリカで多少増えるが北米とロシアでは減って横ばいとなるだろう。

2024年から2026年(予測)の年間供給の変化 (koz)



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

2024年から2026年(予測)の年間需要の変化 (koz)



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

2026年のプラチナ需要は前年比マイナス 8% の 237.0 トンとなる見込みで、自動車需要も工業需要も価格の上昇には大きな影響を受けないだろう。自動車需要は、エンジン車が減産 (-90万台) 予測のため 3% 減り、工業需要は2025年の低いベースから回復して前年比 +11% となるだろう。プラチナ価格の上昇は宝飾品需要にはマイナスとなり、地域別では中国の需要が 37%減と最大の減少で、全体でも 12% 減るだろう。2026年の投資需要としては、プラチナのインゴットとコインの需要(中国の 500グラム以上の大型バーの需要を含む)は過去最高の 23.0 トン(前年比+35%)になり、昨年膨れ上がった取引所在庫(11.9 トン)は 3.1 トン が流出し、2026年の投資需要は 46% 減るだろう。ETF の需要は利益確定売りがあったとしても、新たな資金の流入がそれを打ち消し堅調に推移するだろう。

WPIC 活動のハイライト

我々は世界に広がるWPIC のプロダクトパートナー各社のネットワークを通じて、あらゆる市場においてプラチナ投資を促進するために最適な戦略を立てるための情報を得、そしてまた過去11年間にわたって我々が築いてきた市場関係者との有意義な関係を活用して、世界のインゴットやコインの需要動向に関する貴重な情報を得ることができる。2025年は世界的にインゴットやコインの強い需要がありながらも、商品の入手が困難になる地域もあるなど地理的な差が生じたことが大きな特徴だった。中国はそのプラチナ投資需要の強さと商品の迅速な供給において際立っていたが、他の地域ではリースレートの高騰や流通の障害などで困難な状況に直面した製造業者もあった。このような中でも我々のプロダクトパートナー各社は状況を打破する方法を模索し、第 4 四半期は需要の高い市場に投資商品を提供すべく努力を続けた。

欧州と北米のプロダクトパートナー各社からは第 4 四半期も投資家の需要が旺盛であったとの報告を得ているが、販売の一部は買い戻しで、リースレートが下がらなかったためにコインの新商品の製造と在庫に影響が及んだ。強い需要と関税への対処として、関税対象とならない米国国内で製造した商品や委託製造の法定通貨コインを提供するなどの対策が一部で行われた。インゴットやコインを買えなかった投資家は現物が原資であるプラチナ ETF を求め、オンラインの投資プラットフォームや保護預かり商品の保有量が大きく増えた。

中国では価格の上昇やプラチナ輸入に対するVAT免除の撤廃などにも関わらず、WPIC のプロダクトパートナー各社の第 4 四半期のプラチナ商品の販売高は、前期比で 5% 増えて今年の四半期ベースで最も多くなった。新しいプラチナ投資商品が登場し、ゴールドに投資していた投資家もプラチナを購入するなど、第 4 四半期の地金インゴットの販売は非常に好調だった。2026年 1 月も旧正月に向けた旺盛な買い意欲にも支えられ地金インゴットの需要は衰えていない。我々は China Gold News と協力して第 4 四半期に 6 つの地方都市で一連のプラチナセミナーを開催し、400 以上の小売業者と交流を深めた。12月には中国黄金協会とともに China PGMs Market Annual Conference 2025 を開催した。参加団体は400 を超え、プラチナ市場への関与と業界内のネットワーキングをさらに強化することができた。2026年は上海プラチナウィークが7月第 2 週の6日から10日に開催される予定で、昨年550 名以上の現地参加者と50万人以上のオンライン参加者があった実績を上回ると期待している。

日本も2025年第 4 四半期の販売は四半期ベースで最も多くなるなど非常に好調だった。ETFへ資金が流入しただけでなく小売店での現物プラチナの販売も増え、買い戻しが比較的少なかったことも需要の押し上げに一役買った。同時に、日本のパートナー各社に対しては投資家教育の取り組みを拡大するよう働きかけ、市場の理解と関与を深めるために提供できるコンテンツの充実に務めた。

CEO トレバー・レイモンド

目次

はじめに	1	2026 年の展望	17
要約データ表 (koz)	5	詳細データ表	22
第 4 四半期のレビュー	6	用語集	28
2025 年のレビュー	11	著作権と免責事項	32

PLATINUM QUARTERLY Q4 2025

表 1 : 供給、需要、地上在庫のまとめ (トン表示は24ページの表7を参照)

	2022	2023	2024	2025	2026f	2025/2024 Growth %	2026f/2025 Growth %	Q3 2025	Q4 2025
Platinum Supply-demand Balance (koz)									
SUPPLY									
Refined Production	5,523	5,606	5,777	5,550	5,553	-4%	0%	1,414	1,590
South Africa	3,915	3,957	4,133	3,965	4,010	-4%	1%	1,038	1,172
Zimbabwe	480	507	512	502	518	-2%	3%	119	131
North America	265	278	265	209	192	-21%	-8%	50	53
Russia	663	674	677	676	637	0%	-6%	156	183
Other	200	190	191	198	195	4%	-1%	51	51
Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory	+45	+14	+10	+1	+0	-93%	-100%	-29	+26
Total Mining Supply	5,568	5,620	5,787	5,551	5,553	-4%	0%	1,385	1,616
Recycling	1,811	1,515	1,516	1,664	1,827	10%	10%	416	439
Autocatalyst	1,370	1,114	1,143	1,227	1,348	7%	10%	306	317
Jewellery	372	331	298	355	391	19%	10%	89	101
Industrial	69	71	76	81	88	7%	8%	21	21
Total Supply	7,378	7,135	7,303	7,215	7,379	-1%	2%	1,801	2,055
DEMAND									
Automotive	2,768	3,210	3,107	3,035	2,943	-2%	-3%	729	758
Autocatalyst	2,768	3,210	3,107	3,035	2,943	-2%	-3%	729	758
Non-road	†	†	†	†	†	N/A	N/A	†	†
Jewellery	1,880	1,850	2,008	2,190	1,927	9%	-12%	488	506
Industrial	2,156	2,379	2,409	1,915	2,124	-21%	11%	506	528
Chemical	672	839	825	575	633	-8%	10%	126	143
Petroleum	193	160	159	185	154	16%	-17%	46	46
Electrical	106	89	93	97	98	4%	1%	25	26
Glass	436	491	692	177	340	-74%	92%	91	82
Medical	278	292	308	320	332	4%	4%	80	82
Hydrogen Stationary and Other	13	22	40	65	69	63%	7%	15	22
Other	459	486	491	496	498	1%	0%	122	127
Investment	-518	384	701	1,157	625	65%	-46%	291	463
Change in Bars, Coins	259	310	192	372	540	94%	45%	68	119
China Bars ≥ 500g	90	134	162	165	185	2%	12%	34	49
Change in ETF Holdings	-559	-74	296	234	0	-21%	-100%	-169	312
Change in Stocks Held by Exchanges	-307	14	50	384	-100	>±300%	N/A	358	-18
Total Demand	6,287	7,822	8,224	8,297	7,619	1%	-8%	2,015	2,255
Balance	1,092	-688	-921	-1,082	-240	N/A	N/A	-214	-200
Above Ground Stocks	5,543**	4,855	3,935	2,853	2,613	-27%	-8%		

出典: メタルズフォーカス (2022年から2026年予測)

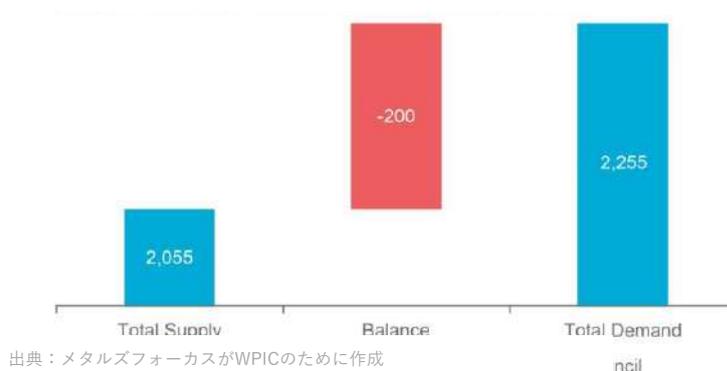
注:

1. 地上在庫: ***113.5トン 2018年12月31日時点 (メタルズフォーカス)
2. †道路を通行する車両以外の自動車需要は自動車触媒需要に含まれる。
3. 予測は全て最新データに基づくが、新たな四半期レポートのデータに応じて修正されることがある。
4. WPICは2013年、および2014年第1四半期および同年第2四半期の予測は発表していない。しかし2014年第3四半期から2022年第2四半期のデータは過去のプラチナ四半期レポートに掲載されており、それらについてはWPICウェブサイトを参照 (無料)。
5. 2022年第3四半期以降の四半期予測と2022年上半年期以降の6ヶ月予測は、21ページの表3と22ページの表4にそれぞれ含まれている (供給、需要、地上在庫)。
6. 26ページの表6の地域毎のリサイクル供給の詳細データは2019年からのものによる。

2025 年第 4 四半期のプラチナ市場レビュー

2025年第4四半期のプラチナ市場は 6.2 トンの供給不足となった。鉱山生産もリサイクル供給も年間成長率ではそれぞれ +6% と +15% で供給全体を 63.9 トンに押し上げたにも関わらず、前年比同期比で 3% 増えて 70.1 トンとなった需要を賄うことはできなかった。自動車、宝飾品、工業のプラチナ需要は前年同期比でわずかに減少したが、投資分野はプラチナ価格の上昇を背景に投資家の買いが伸びて需要が 29% 増えた。第 4 四半期中に広州先物取引所(GFEX) でプラチナ先物取引が始まり、年末にはプラチナ価格が 31% 上昇、下がらない地政学リスクとゴールド価格の高騰など、貴金属全体に対する投資意欲を支えた。

チャート 1 : 2025年第4四半期の需要供給バランス (koz)



供給

世界の鉱山生産は前年同期比で 3% 増の 49.4 トンとなり、最近の四半期ベースの生産量と比べると緩やかな増加となった。南アフリカでは生産設備の運営が安定して仕掛かり在庫の処理が進んだ。

南アフリカの鉱山会社の生産は前年同期比で 1% 増えて4年ぶりの高水準に達した。イムプラッツの精錬生産量は 1.24 トンの仕掛かり在庫の処理で高上げられ、Valterra でも一部は鉱山の採掘量の増加で、主には仕掛かり在庫の処理で増産となった。

ノーザムの精錬生産も増えた。2025年後半に全鉱山で採掘量が前年同期比で増えたが、それよりも Eland 鉱山の増産と第三者から買い取った鉱石の処理が増えたことが増産に結びついた。

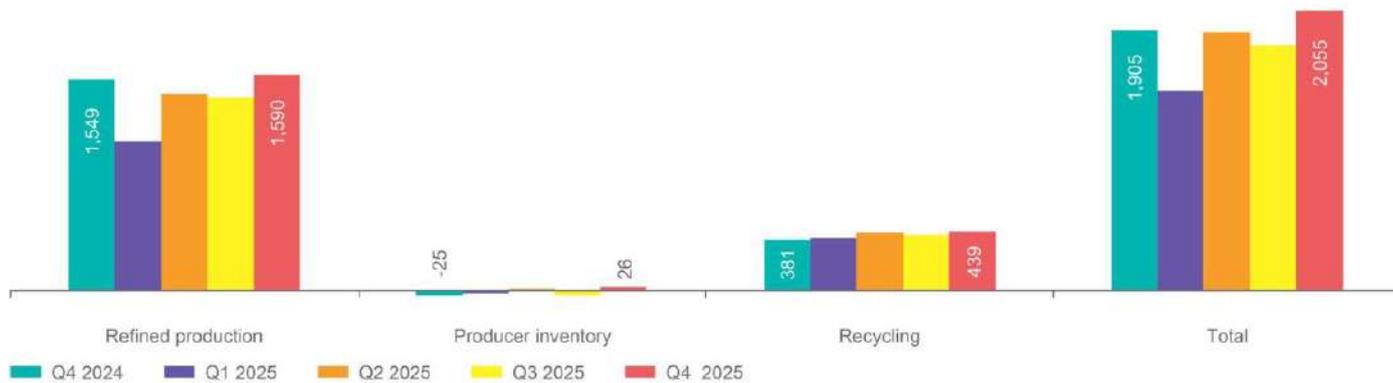
ジンバブエの生産は拡張された精錬所の稼働が始まり前年同期比で 8% 増えた。ロシアは設備メンテナンスが終わって生産が回復し前年同期比で 25% の増加だった。

北米は、カナダのニッケル鉱山採掘の副産物の生産が減っているため前年同期比で減産となった唯一の地域となった。この減少傾向は実際数年間続いているが、Magna Mining の McCreeley West 鉱山の生産が Vale の予定外のメンテナンスによる減産を補えなかったことも響いた。さらに米国でもシバニエ・スティルウォーターが2024年9月に発表した米国事業の再編成を受けて、減産になる見通しだ。

リサイクル

第 4 四半期のリサイクル供給は前年同期比で 15% 増え (+1.8 トン) 13.7 トンだった。自動車触媒のリサイクルは 10%、宝飾品のリサイクルは 37%、電子材スクラップは2% それぞれ増えた。3割上がったプラチナ価格が背景にあったことは間違いないが、自動車触媒の回収量はスクラップ鉄の価格低迷と運転資金の調達コストの高騰で抑えられてしまった面もある。宝飾品リサイクルは中国では 61% も増え、全体でも 37% 増えた。中国では元建プラチナ価格が四半期中に36% も上がり、第 2 四半期中にプラチナ宝飾品の在庫を増やした製造業者や小売業者が売れ残りを大量に処理したためだ。電子材のスクラップは増えたが回復率は小幅にとどまった。

チャート2：プラチナ供給 (koz)

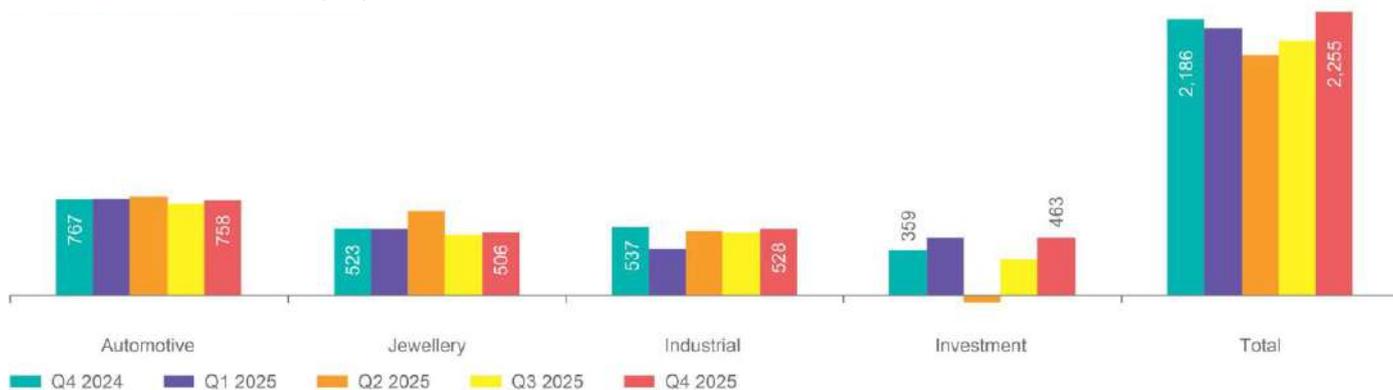


出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

需要

第4四半期の需要はプラチナの高価格と投資需要に支えられ、前年同期比で3%増え(2.1トン)70.1トンだった。ETFとインゴット・コインの投資需要はどちらも前年同期比で2倍以上、それぞれ121%増の9.7トン、122%増の3.7トンとなった。取引所在庫は前期に11.1トンも流入した後、第4四半期中は0.56トン減った。自動車、工業、宝飾品の需要はわずかに減った。

チャート3：プラチナ需要 (koz)



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

自動車需要

自動車需要は、ハイブリッド車とエンジン車の生産動向が地域やカテゴリーで分かれ、前年同期比で1%減って(-0.24トン)23.6トンとなった。

欧州では自動車生産が全体で横ばい、プラチナ需要は3%減って7.4トンだった。普通乗用車のエンジン車の生産はマイナス2%、大型車生産も4%減った。普通乗用車のバッテリー電気自動車(BEV)のシェアは16%に伸びたが、大型輸送車のBEVのシェアは変わらず3%のままだった。

北米では、関税関連で貨物輸送業界の先行き不安が続いて車両更新が遅れ、在庫過剰となったために大型輸送車の生産が28%減り、そのため自動車のプラチナ需要は13%減った。普通乗用車では、インフレ抑制法に基づく7500ドルの税控除の期限となった9月30日を前にBEVの駆け込み需要が見られた。税控除期限が切れた後はBEVだけでなく乗用車全体の需要が落ち込んだ。北米の普通乗用車の生産はハイブリッド車の増産でもBEVとエンジン車の減産の一部しか補えず、全体では8%減った。

日本では普通乗用車のエンジン車生産はわずかに減ったが、大型輸送車の増産がそれを補い、プラチナ需要は概ね横ばいだった。

中国では大型輸送車生産が増えたため、プラチナ需要が前年同期比で 6% 増えて4.6 トンとなった。中国政府は設備更新と消費財の買い替えを大規模に支援する政策を打ち出し、「国 III」や「国IV」排ガス規制に対応した古い商用車を廃車にして「国 VI」規制対応の新エネルギー車に買い替えるための経済的支援策が需要を支えた。

そのほかの地域では、インドで国内需要と経済政策に支えられてエンジン車の生産が増えるなどし、低迷した他の地域を補ったため、全体で 2% 増えて 6.2 トンだった。

宝飾品需要

第 4 四半期の世界のプラチナ宝飾品製造は、中国市場の鈍化が他の地域の回復を上回ったため前年同期比で 3% 減って 15.7 トンだった。プラチナは引き続きゴールドよりも割安だが、プラチナ価格そのものも上がっているため消費者需要を圧迫した。世界の需要が減った最大の要因は中国だったが、一方で北米市場は好調で、それ以外では価格に敏感な日本やドイツは低迷、インドや欧州は安定するなど、結果が分かれた。

北米の製造量は前年同期比で 10% 増えて 3.4 トンだった。プラチナ宝飾品の価格は上がっているもののゴールド商品を上回ったのは、第 4 四半期のゴールドのプレミアムが 19% と広がったことや、ブライダル市場でのプラチナ商品のシェアの高さ、ホリデーシーズンの販売などが背景にあった。

欧州の需要は前年同期比で4% 減って 2.7 トンだった。主に欧州最大の製造国であるドイツ市場が低迷したが、それ以外では、スイスの時計輸出は前年同期比で 14% 増え、イギリスの品位証明刻印受付量は 6% 増、イタリアの製造量も増えたと見られる。

日本のプラチナ宝飾品需要は特に12月に価格が上昇したためにわずかに減少した。しかし、ゴールドとの価格差や投資目的もある喜平チェーンの人気の高さなどが需要を支えた。世界の需要の足を引っ張ったのは中国で、製造量は前年同期比で 10% 減り、前期比では 11% 減って 3.0 トンだった。価格の上昇が在庫削減の動きと重なり、11月1日から上海黄金交易所で引き渡される輸入プラチナにかかる 13% の VAT 免税が撤廃されたこともコストをさらに押し上げ在庫整理を促した。定額でプラチナ宝飾品の個数販売を行う香港のブランドの中には販売価格と時価の差が消費者に有利に働いたために販売高が増えたところもあった。

インドの宝飾品製造は好調だった前年同期と比べ 7% 減って 2.7 トンだったが、第 4 四半期の需要は2025年全体の 36% を占めるなど好調だった。製造の大部分を占める輸出では米国の代わりに英国が輸出先が変わり、国内需要は販売網とプラチナ商品の普及拡大によって支えられた。

工業需要

2025年第4四半期の工業のプラチナ需要は、主にはガラスの需要が 32% 落ちたために前年同期比で 2% 減って 16.4 トンだったが、化学、石油、電子材分野が好調で減少を一部補うことができた。

化学

第4四半期の化学のプラチナ需要は前年同期比で 6% 増、前期比では 14% 増で 4.4 トンだったが、これはベースラインが低かったためで、2019 年から2023年に高かった水準と比較すると非常に少ない。主に石油化学プラントの建設と稼働開始のペースの急減が響いている。一方でプロパン脱水素 (PDH) は中国で小規模ではあるが生産能力の増強が行われた。シリコン産業のプラチナ需要は経済の低迷とプラチナ価格の高騰が収益を圧迫したため前期比で減少した。この他、硝酸生産のプラチナ需要は生産拡張が続き、第4四半期は少し増加した。

石油

第4四半期の石油関連のプラチナ需要は、ガス・ツー・リキッド工場の触媒交換後の補充需要の拡大で前年同期比16% 増えて 1.43トンとなった。接触改質と異性化分野の需要は、大規模な設備拡大や操業停止がなく概ね横ばいだった。

医療

第4四半期の医療のプラチナ需要は、世界的にがんの罹患率が増え、新興国でも医療へのアクセスが向上したことなどから、プラチナベースの化学療法が増加した。また、プラチナの優れた生体適合性と特性のおかげでインターベンション治療やインプラントの需要も増えたことなどをあわせ、前年同期比で 3% (+62.2キロ) 増えて過去最高の 2.6トンとなった。

ガラス

第4四半期のガラスのプラチナ需要は前年同期比で 32% 減って (-1.21トン) 2.6トンになった。この分野の需要が2024年半ばをピークに減っているのは、2023年終わりから2024年半ばにかけて液晶ディスプレイ工場の設備拡大がないためだ。グラスファイバー分野の需要はインドで生産能力増強が行われ、世界的に低迷した需要を多少補った。

電子材

第4四半期の電子材のプラチナ需要はデータセンターや先端半導体などAI 関連の投資に支えられて、前年同期比で 7% 増 (+62.2キロ) 0.8トンだった。ストレージ市場では大容量のハードディスクドライブにおいて1ユニットあたりのディスク枚数とヘッドの技術的な複雑さが増したことで、ドライブあたりのプラチナ使用量が増えた。しかし、AI 関連の需要はコスト面でハードディスクドライブが有利であっても、生産能力の制約や新技術の立ち上げの遅れが障害となって出荷数全体はそれほど伸びなかった。

半導体分野では、先端ノード、特に 7 nm以下のもののコンタクト層への使用や生産能力拡大を背景に、プラチナ合金のスパッタリングターゲットの需要が増えた。

水素: 定置型燃料電池とその他

第4四半期の水素関連技術のプラチナ需要は前年同期比で 63% 増えて 0.68トンになった。水電解装置の生産が定置型燃料電池と貯蔵設備の伸びを上回った。水素関連の投資資金が撤回された地域もあって今後の成長鈍化が懸念されるが、これまでに決定されたプロジェクトは既に導入段階に進んでいる。特に欧州では水電解装置の需要が増えており、Bosch は独バンベルグにある 2.5 MW の PEM 型水電解装置の稼働を開始させ、ハンブルグの Green Hydrogen Hub でも 100 MW の PEM 型水電解装置の建設に着手した。また、Plug Power はナミビアにて Cleanergy Solutions のグリーン水素プロジェクトのために 5 MW の PEM 型水電解装置を設置した。

その他

第4四半期のその他の工業分野のプラチナ需要は堅調な自動車生産と排ガス規制の厳格化を支えに、前年同期比で 2% 増 (+93.3キロ) 3.9トンだった。地域によってパワートレインの生産動向は異なるが、エンジンの頻繁な再始動によって点火システムに高い負荷がかかるハイブリッド車のシェアが増えているため、プラチナとイリジウムを使うスパークプラグの需要が増えた。

投資需要

第4四半期の投資分野のプラチナ需要は 29% 増えて 14.4 トンだった。世界のインゴットとコインの投資は 2 倍以上増えて (+0.68トン) 3.7 トンとなり2023年第1四半期以来最も多くなった。地域別では中国が最大 (+1.7 トン) だったが、そのほかの地域も0.68トン増えた。

北米のインゴットとコインの販売は前年同期比で 41% 減って (-0.46トン) 0.65トンだったが、前期比では 86% 増え、急激に回復した。第3四半期の終わりから関税に関する不透明感が薄れ、10月半ばには個人投資家の関心が再び高まった。しかし、プラチナのリースレートが上昇したために一部の商品が在庫不足となり需要を満たすことができなかった。

欧州の個人投資家需要は、第3四半期同様に商品の在庫が限られたために前年同期比で66%減、前期比では4%減と低迷し、3年ぶりに少ない0.12トンだった。プラチナのリースレートが高いまま下ならず、個人投資家のゴールドとシルバー投資需要が急成長してプラチナへの投資額が減ってしまった。

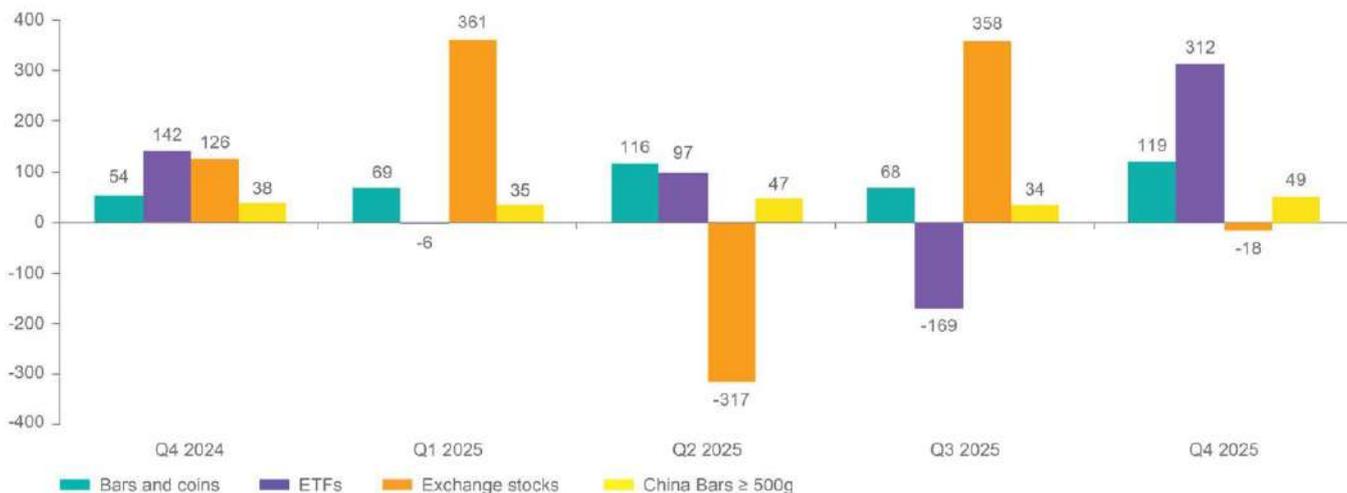
日本では、10月にゴールド投資需要が前例がないほど増え、その勢いが他の貴金属にも波及してプラチナの商品も多くが売り切れの状態となった。11月には価格変動も小幅になって市場がある程度飽和状態になり状況は落ち着いたが、12月には再びプラチナ価格が上昇し、トレンドを追随する傾向が強い日本の投資家の需要が再び上向いた。

中国では、プラチナのパフォーマンスに関心が高まり、個人投資家需要は前年同期比で190%増、前期比では37%増の1.7トンだった。その他の地域では年末にかけてインゴットとコインの需要が高まった。オーストラリアやインドなどではゴールドの投資熱がプラチナにも及び0.68トンの需要があった。

第4四半期のプラチナETFには9.7トンの資金流入があり、保有高は2025年12月30日現在で110.1トンだった。流入資金のうち北米のファンドが7.7トンをしめ、前年同期のほぼ2倍となった。自動車の電動化のスピードが鈍化していることや、重要鉱物の入手懸念、関税や通商拡大法232条調査などがETFへ資金が流入する背景となった。日本でもETFの残高が0.93トンも増え、四半期ベースで過去最高となった。対照的に南アフリカではネットベースで0.87トンの資金流出となった。価格上昇局面において投資家が利益を確定させ、配当金の増加への期待から鉱山株に資金が移動したようだ。

取引所在庫は年末までに0.56トン減って20.3トンとなったが、歴史的にはまだ高い水準にある。在庫が流出したのは2025年を通じて多くのトレーダーが利益を得てきたEFP取引の機会が減少したことを反映している。

チャート4：プラチナ投資 (koz)



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

2025年のレビュー

2025年は33.7トンという過去最大のプラチナ不足の年となった。旺盛な投資需要に対し供給は前年比マイナス1%。南アフリカで洪水やメンテナンスの中断などがあり、仕掛かり在庫の処理は行われたものの鉱山生産は伸びなかった(4%減、-7.3トン)。リサイクル供給は4.61トン増えて51.8トンになったが、鉱山生産の減少を補うことはできなかった。一方、需要はゴールド宝飾品からの乗り換えでプラチナ宝飾品製造が増え、投資需要も伸びて全体で1%増えて258.0トン、供給を上回った結果プラチナが不足した。

チャート5：2014年から2025年予測の需要供給バランス (koz)



出典：2014年～2018年はSFA(オックスフォード)、2019年～2025年予測はメタルズフォーカス

供給

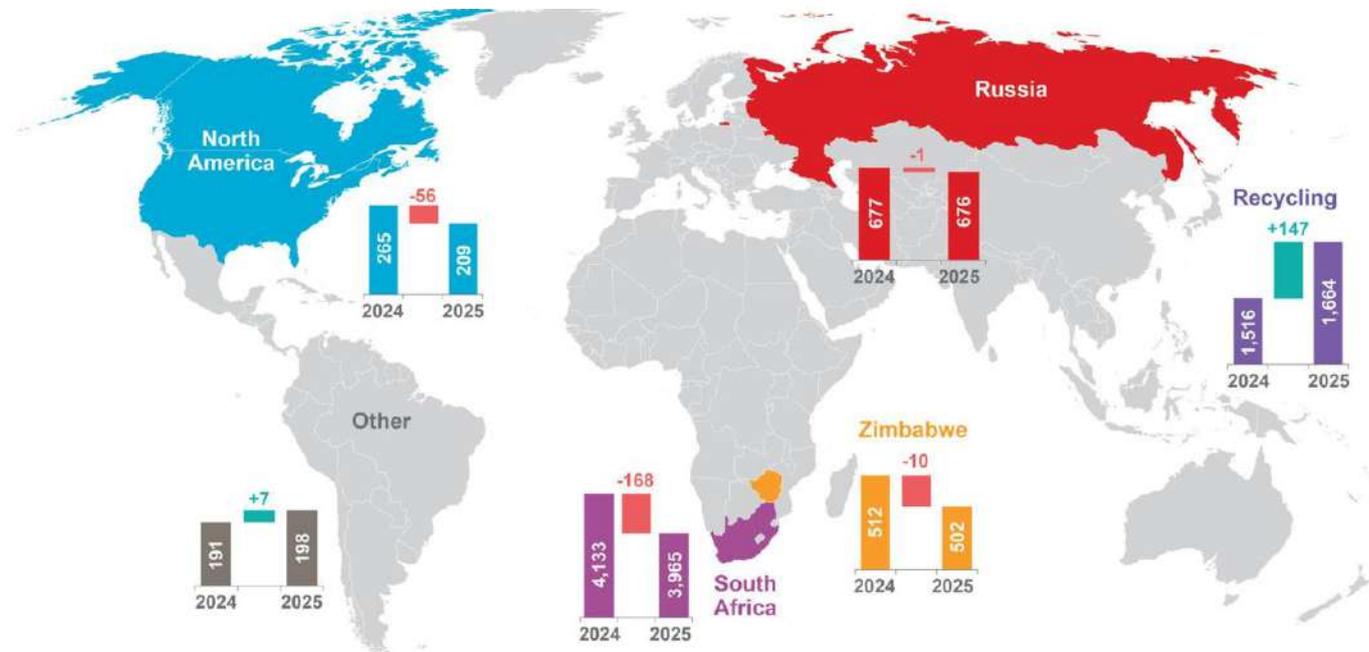
2025年の世界の鉱山生産は、2025年初めの『プラチナ四半期レポート2024年第4四半期』で発表した予測と概ね一致し、前年比マイナス4%の172.6トンだった。ほとんどの大手生産会社の四半期ベースの動向はばらついたが、通年の生産目標は達成することができた。

2025年の第1四半期の供給は4年ぶりに低く、我々の持つデータの中では2020年第2四半期(ACP転炉の閉鎖で世界の供給の3分の1が失われた時期)を除いて最も少ない四半期となった。南アフリカが豪雨に見舞われ、精錬設備のメンテナンスの間に仕掛かり在庫が蓄積したが、メンテナンス終了後には昨年からの繰越在庫ともに仕掛かり在庫も処理され、一年を通じて精錬生産量を支えた。2025年全体では南アフリカの鉱山生産が前年比で4%減の123.3トンとなったが、これはValterra Platinumの仕掛かり在庫の処理のおかげで2024年の生産量が嵩上げされていたためだ。

ジンバブエの供給は前年比で2%減って15.6トンとなった。2024年は過去最高だったが、精錬所の拡張が行われたにもかかわらずUnki鉱山とMimosa鉱山の電力不足や低品位鉱石などの理由で減産となった。

ロシアの生産は概ね変わらず21.0トンだった。ノリリスクニッケルは西側諸国から機器の調達ができなかったために代用品への切り替えが必要となり生産目標を引き下げた。北米では前年比で21%生産が減って6.5トンとなった。構造的な低迷が続く中で、ニッケル価格の下落でカナダの鉱山の副産物生産の採算性が圧迫され、またシバニエ・スティルウォーターが米国拠点を縮小したことも生産量を抑制する原因となった。

チャート 6 : 2024年と2025年の供給の変化 (koz)



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

リサイクル

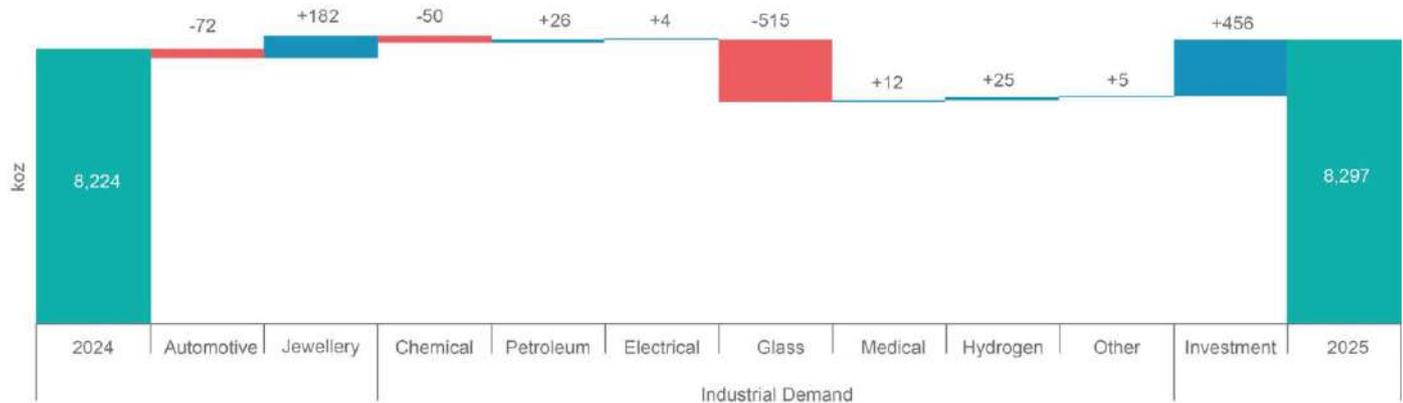
2025年の世界のプラチナのリサイクルは、自動車触媒と宝飾品のリサイクルが伸びて前年比 10% 増えて 51.8 トンだった。自動車触媒のリサイクルは前年比 7% 増えて 38.2 トン (+2.6 トン)。欧州と北米では廃車が増えたが、スクラップ鉄の価格低迷、与信枠の限定と運転資金コストの上昇などが車体解体業の採算性に影響を及ぼしたため、それがなければ廃車率はさらに伸びたかもしれない。PGM 価格が上がったには自動車触媒のリサイクル流通網がフルに活用されなかった可能性がある。中国では政府が車両のスクラップを奨励する政策を打ち出したためにリサイクル量が増え、日本だけが唯一リサイクル量が減った地域となった。

宝飾品のリサイクルは前年比 19% 増えて 11.0 トン (+1.80 トン) だった。増加の大部分は中国で、2024年の 5.6 トンから、2025年は 3 割増えて 7.2 トンになった。国内のプラチナ価格が 36% 上昇したことで宝飾品メーカーや小売業者が第2四半期に溜め込んだ在庫の売れ残りを大量にリサイクルした。その他の地域では日本でわずかに増加、欧州と北米は低いまま増えなかった。電子材のリサイクルは前年比 7% 増えて 2.5 トン (+0.18 トン) だった。

需要

2025年の世界のプラチナ需要は 1% 増えて (2.3 トン) 258.0 トンだった。投資需要が 65% 増えて (+14.2 トン) 36.0 トン、宝飾品需要は 9% 増えて 68.1 トンになった。対照的に工業需要は、新たな工場建設が行われなかったガラスと化学の需要が減ったために 21% 減って (15.4 トン) 59.6 トンだった。

チャート 7 : 2024年と2025年（予測）の分野別需要の変化



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

自動車需要

2025年は世界的に自動車生産が回復したが、自動車触媒のプラチナ需要は前年比2%減って(-2.2トン)94.4トンだった。普通乗用車の生産は3%増えて9300万台、大型輸送車生産は4%増えたが、エンジン車の生産はどちらのセグメントでも1%減り、ハイブリッド車の増加でも需要の穴を埋められなかった。BEVの生産は前年比29%増で1500万台に達し、普及率は伸びている。地域別の需要では、元々車両一台の触媒に使われるプラチナの量が多かった欧州と北米のプラチナ需要の減少が最も顕著で、中国では大型輸送車のハイブリッド車生産が53%増えてプラチナ需要を支えた。

欧州の自動車需要は前年比で8%減り(-2.5トン)29.5トンになった。排ガス基準値の計算法が3年間のフリート平均に変わったことで、罰金に関しては一定の猶予が与えられた形となった。

北米の自動車需要も前年比で8%減り(-1.15トン)14.0トンになった。普通乗用車セクターでは、ハイブリッド車生産が14%増えてエンジン車生産の減少を抑えプラチナ需要が増えたが、この増加も大型輸送車セクターの不振で相殺されてしまった。大型輸送車生産は28%減り、EPAの2027年排ガス基準導入に先駆けて起こった昨年の前倒し需要の影響がまだ続いていることを示している。また、関税関連で輸送業界の先行きが不透明になり車両の買い控えなどが起こった。排ガス規制の緩和が予測されているが、2025 Corporate Average Fuel Economy (CAFE-3)の規制でハイブリッド車の生産は増えている。

日本の自動車のプラチナ需要は前年比4%増えて(+0.31トン)9.2トン、中国は5%増えて(+0.74トン)16.7トンだった。どちらの市場も普通乗用車、大型輸送車ともにエンジン車の生産が増えた。中国で大型輸送車生産が回復したのは、政府の大規模な設備更新と消費財の買い替えを支援する政策が大きな要因だ。古い商用トラックを廃車にして「国VI」排ガス規制に対応した車両や新エネルギー車モデルなどのクリーンな車両への買い替えを促す経済的支援、普通乗用車にも廃車と買い替えの支援、車両下取り支援の延長、特別国債による経済的な支援、新エネルギー車の普及促進を進める方策などが設けられ、自動車セクターの安定を目指した政策が生産を支えた。輸出も好調な中で新エネルギー車(NEV)のシェアは伸び続けており、変動の大きい中国国内の需要の受け口となっている。

その他の国の自動車のプラチナ需要は2%増えて24.5トンだった。大型輸送車生産は4%減ったが、普通乗用車生産は1%増えた。普通乗用車の中ではハイブリッド車の生産が38%増え、かつ燃料電池自動車の生産も急増してエンジン車の減産を補った。

宝飾品需要

2025年の世界のプラチナ宝飾品需要は9% 増えて(5.7 トン) 68.1 トンになった。前回の予測 67.1 トンから増えたのは、インドでゴールド価格が高騰した時にプラチナ商品の在庫構築が増え需要を押し上げたからだ。

北米の宝飾品製造は 6% 増えて14.6 トンで過去最高となった。ダイヤモンドの価格が下がったことで、石留めにより多くの地金を使うカラット数の大きな商品が売れた。プラチナ宝飾品市場は高級品とプライダル商品が多く、ゴールド価格の上昇に影響を受ける一般的な宝飾品市場よりも、価格の上昇にはそれほど影響を受けないという特徴があり、プラチナ宝飾品に対する支出のシェアが増えた。

欧州の製造量は 5% 増えて 11.2 トンとなり、これも我々のデータの中で過去最高となった。プラチナ価格の上昇はゴールドの上昇よりも遅れ、年半ばまでに価格差が広がったため需要の伸びは前半に集中した。下半期から製造量は減り始め第4 四半期にはその傾向が顕著になった。それでも2025年の下半期は、10% も減ったゴールド宝飾品の需要を上回った。

日本では上半期に増えた需要は下半期の減少で打ち消しになり、通年は 2% 増えただけの 11.9 トンに止まった。上半期はゴールドとの価格差で売り手も買い手もプラチナに向かったことで需要が増えたが、下半期はプラチナ価格も上昇したため販売量は伸びなかった。

中国のプラチナ宝飾品需要は前年比 40% 増えて 18.0トンになったが、一年を通じた動向は主にサプライチェーンの在庫に左右されて不規則だった。まず第2四半期に製造量が前年同期比で2 倍以上増えて需要を82%押し上げたが、これは深圳の水貝地域の卸売業者が積極的に在庫構築を行い、200キロから500 キロの在庫を抱えるとされる新しいプラチナのショールームが10ヶ所以上も増えた。ゴールド価格の高騰でゴールド商品の在庫コストがかさみ、それに比べて割安なプラチナ商品に取引の重点が変わって4月と5月初めに在庫が増えた。しかしその後、6月以降はプラチナ価格も上昇したために在庫構築の勢いが鈍り始め、また価格調整が近いとの予測もあって在庫の積み増しがさらに減った。小売店の実売の傾向も一定しておらず、結果的には製造量が消費者の需要を上回った。そして第4 四半期は価格の上昇と在庫整理が重なったために製造量が減り、さらに上海黄金交易所が11月からプラチナ輸入の 13% のVAT 免税を撤廃したことで運転資金が高み、在庫整理が加速して年終わりの需要の低迷をさらに悪化させた。

インドの需要は予測を上回る結果となったが、プラチナ宝飾品市場には変化があった。米国の関税を受けてインド国外に製造拠点が移ったために輸出が減り、国内需要も低迷した。ゴールド価格の高騰で一部の消費者はプラチナに向かったが、貴金属への投資需要が強まったことで宝飾品への支出は減った。この一方で大手小売チェーンは店舗網を広げ、高い収益率を求めてプラチナ宝飾品のプロモーションを積極的に行い需要増に貢献した。

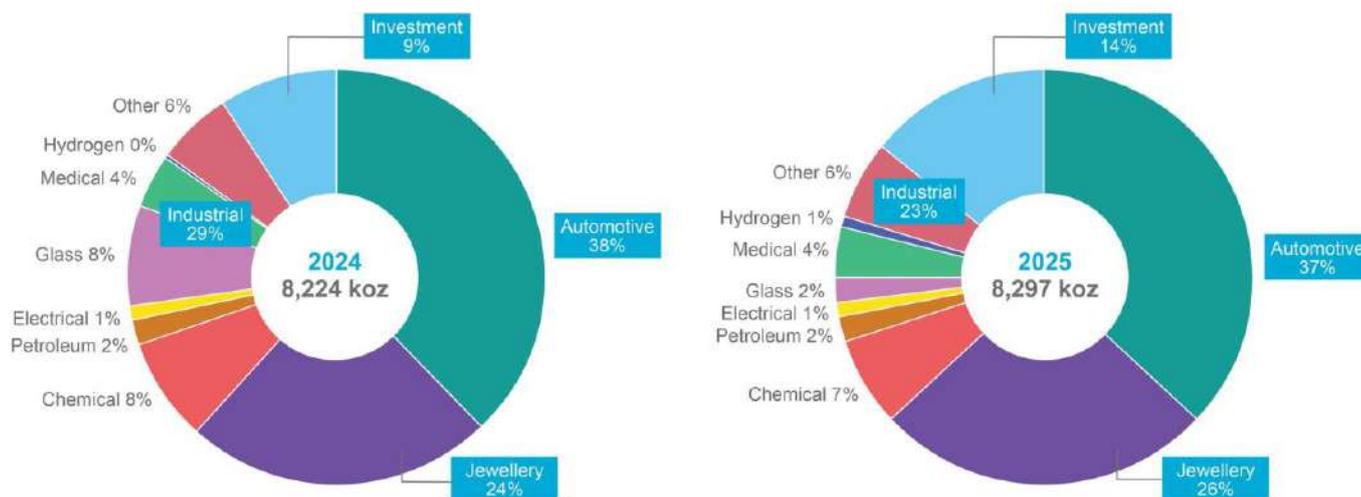
工業需要

2025年の工業のプラチナ需要は前年比で 21% 減って 59.6 トンとなり、2017年来最も少ない需要の年となった。マイナス 74% となったガラス産業の需要の減少が最も大きく、LCD 生産工場の拡張がなくアジアでは工場閉鎖も行われた。しかし、他の分野では石油産業の需要が 16% 増え、水素関連の需要も 63% 増えるなどして一部の需要は補われた。

ガラス

ガラス産業のプラチナ需要は前年比 74% 減って (-16.0トン) 5.5 トンとなり、2023年から2024年の生産能力拡張期と比べ大幅に減った年となった。積極的に生産能力を高めていた中国メーカーは拡張サイクルの谷間に入り、需要は 9.5 トン減ってコロナ禍以前以来で最低水準となった。日本でも需要がさらに減りネットベースではネガティブ5.7トンだった。その他の地域の需要はわずかながら増加したが、上記の減少を補うには足りなかった。ファイバークラスのプラチナ需要は、インドの生産が一時的に減ったが全体的に安定しており、それも2026年には回復すると見られている。

チャート 8 : 2024年と2025年 (予測) の分野別需要



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

化学

化学産業のプラチナ需要は8%減って17.9トンとなり、2年連続で減少して2018年以来最も低い水準となった。これは主にパラキシレン (PX) 工場の新設稼働が減ったためだが、2019年から2023年に中国で続いたPXプロジェクトの稼働ラッシュの後の流れとしてはある程度予想されていたことだ。シリコン産業のプラチナ需要は、硬化プロセス中の触媒にプラチナを使う付加硬化型シリコンやシリコン剥離剤の生産の増加に支えられて年初は需要が増えた。しかし、米国の関税をめぐる貿易政策や世界経済の軟化、その後のプラチナ価格の上昇などが重圧となってシリコン生産の触媒需要を押し下げた。一方で、肥料生産のプラチナ需要は、新規の生産能力増強が少なかったが、概ね安定していた。

石油

石油関連のプラチナ需要は前年比で16%増えて3年ぶりに多い5.8トンとなった。プラチナ触媒の補充を必要とするガス・ツー・リキッド工場での触媒交換の件数が増えたことと、バイオ燃料プロジェクトへの投資が増えたこともプラチナ需要に貢献した。一方で、接触改質と異性化装置のプラチナ需要は、欧州、米国、中国で製油所が恒久的に閉鎖されるなどして世界的に石油精製能力が縮小したため、2025年は減少した。生産能力増強も限定的で、増えても既存の製油所の段階的な拡張に限られた。

医療

2025年の医療のプラチナ需要は4%増えて(+0.37トン)10.0トンで、医療機器のプラチナ需要が大部分を占めた。がんの罹患率と医療ケアの増加によってがん治療のプラチナ需要は最も急速に増えている分野だ。

電子材

2025年の電子材のプラチナ需要は、AIとデータインフラ関連のデータストレージと半導体市場の幅広い好調に支えられて4%増の3.0トンだった。大容量ハードディスクドライブの分野ではユニット毎のプラチナ使用量が増え、半導体メーカーはプラチナ合金スパッタリングターゲットの需要が増えた。データセンターの規模は年間を通じて拡大している。業界の調査によると、高密度で拡張可能なクラウドとAI処理能力を支えるために大手IT企業が運営する超大型データセンターの拠点数は、2024年末はおよそ1136拠点だったが、2025年第1四半期の終わりまでに1189拠点に増えた。さらに2025年半ばの時点で125のデータセンター建設プロジェクトが進行中だった。クラウドコンピューティングとAIのトレーニング専用施設への投資も増え続けている。

水素: 定置型燃料電池とその他

2025年の定置型燃料電池とその関連のプラチナ需要は前年比で 63% 増え (+0.77トン) 2.0 トンになったが、導入件数の増加は地域によってばらつきがあった。成長を牽引したのは欧州で、新たな水電解装置の設置、水素発電設備、工業用の脱炭素化パイロットプロジェクトなど水素バリューチェーン全体にわたるプロジェクトが実行された。北米でもいくつかの大規模プロジェクトが進んでいるが、水素政策が先行き不透明なことや最終投資決定の遅れなどがあって広範な普及には至らなかった。日本は補助金のおかげで最低限の導入水準は超えたものの、急速な拡大は見られず、需要は概ね横ばいとなった。中国は低いベースからではあるが勢いが増している。アルカリ水電解技術が大半だが、工業分野における初期段階の水電解装置の設置プロジェクトの増加は今後のより幅広い普及につながると期待される。その他の地域ではインドや中東などで、補助金制度、技術開発の進展、輸出志向の水素戦略などに支えられて堅調な成長を記録した。

その他

その他の工業分野のプラチナ需要は、エンジン車生産が 1% 減ったにも関わらず 1% 伸びた。これは点火部品にプラチナとイリジウムを多く使うハイブリッド車の伸びが背景にある。ハイブリッド車ではエンジンの頻繁な再始動によって点火システムに高い負荷がかかるためプラチナとイリジウムの使用量が多くなる。

投資需要

2025年の世界のプラチナインゴットとコインの投資需要は、主に中国の投資家の需要のおかげで倍増し (+5.6 トン) 5年ぶりに多い推定 11.2 トンになった。

北米のプラチナインゴットとコインの投資需要は推定で27%減って (-0.96トン) 2010年来最も少なくなった。第4四半期の販売は部分的に回復したものの、9月までの低迷を補うことはできなかった。需要が落ち込んだのはゴールドやシルバーの個人投資家需要にも影響を及ぼしたセンチメントの弱さ、プラチナのリースレートの高騰による投資商品の減産、そして関税の影響で欧州からの商品の供給が滞ったことなどが背景だ。

欧州のプラチナインゴットとコインの投資需要は 21% 減って 0.77トン、特に下半期の下落が大きかった。上半期は世界経済の不透明感が増し貴金属投資に対する投資家の関心が高まったと同時に、ゴールドとの価格差でバーゲンハンティング需要がプラチナに向かった。しかし、7月にプラチナのリースレートが過去最高になりその後も下がらなかったため供給に支障が生じ、新たな商品の製造ができずにプラチナのインゴットとコインの小売に影響を及ぼした。またゴールドとシルバーの史上高値更新のニュースが繰り返し取り上げられたことで、プラチナへの関心が薄れてしまったこともある。

日本のプラチナインゴットとコインの投資は全体として買いと売りがほぼ均衡していた。上半期は投資家の注目がゴールドに集まりプラチナはネットベースで売り越しとなったが、下半期はプラチナ価格の上昇で需要が戻った。

中国のプラチナインゴットとコインの投資需要は前年の2.7倍に増えた。価格の上昇とポートフォリオ分散化の動きの中で個人投資家が現物貴金属への投資を急激に増やしたことがこの背景だ。個人投資家が好む小型から中型のインゴットとコインの需要が増えたが、逆に富裕層や機関投資家が購入する大型のインゴットの増加は 2% にとどまった。この層がポートフォリオアロケーションに関しては概ね現状で満足していることを表している。

2025年はこれまでなかったインドのインゴットとコインの需要の成長が注目に値する(その他の地域としての需要に分類)。特に下半期はゴールドとシルバーの価格が史上高値に達したために、投資家がプラチナに目を向け投資需要が増えた。小売店で購入できる商品はまだ限られており、大部分は精錬所や地金ディーラーによる直接販売だった。その他の地域の需要はインドも含め、他の地域も好調だったため 0.80トンになった。

2025年12月31日時点のプラチナ ETF の保有高は1月初め(102.8トン)から 7% 増えて(+7.3トン) 110.1トンになった。1年を通じて北米のファン
ドが非常に好調で、前年の3倍を超える 15.9トンの資金流入があった。日本では2024年は資金が流出したが、2025年は1.49トンの流入に転じた。
欧州は 2024年は大きく買い越したが、2025年は2023年来最も多い 6.9トンという売り越しとなった。南アフリカでは2025年終わりの価格上昇に
伴って利益確定売りが増え、流出が2024年の 0.80トンから2025年は 3.7トンに増えた。投資家の多くは鉱山株に資金を移したようだ。

2025年の取引所在庫は、米政権の交代に伴う関税措置を見越して1月にはすでに歴史的に高い水準である 8.4トンだった。「解放の日」後にプラ
チナが関税対象から外れると、在庫が流出し始めたが、それも長く続かず、7月に銅に関税が課せられると再び取引所の保管庫に現物が集まり始め
た。その後、通商拡大法 232 条に基づく重要鉱物調査によって、取引所在庫が増え、年内はそのまま高い水準で終わった。

地上在庫

2025年は 33.6トンという供給不足のために地上在庫は年末までに推定 88.7トン、世界の需要のわずか4ヶ月分相当にまで減った。

WPIC が定義する地上在庫とは、年末の時点での、上場投資信託に依らず、取引所保有ではない、鉱山生産者・精錬所・宝飾製造会社の加工在庫
ではなく、消費者が所有していないプラチナの総量をいう。

2026 年の展望

2025年のプラチナ市場は非常に逼迫したが、2026 年は緩やかな不均衡を保つ市場となるだろう。鉱山供給は172.7トンと横ばい、プラチナ価格の上昇で
宝飾品と自動車触媒のリサイクルが 10%増えて供給全体は 2% 増加の 229.5トンになる予測。

世界のプラチナ需要は 8% 減って 237.0トンの見込み。過去 2 年間続いた宝飾品需要の伸びは止まり、自動車需要も緩やかな減少になるだろう。
米国の貿易政策が年内に明確になれば不確実性は徐々に消え、一部の投資家は利益確定に動くだろう。そうなれば、前例がないほど増えた昨年
のインゴットとコインの投資需要は多少鈍化するが、それでも15.6トンを超えるだろう。工業需要はガラス産業とその他の分野の需要が回復し
て 11% 増えるが、しかし、市場は2026年も再び 7.5 トンの供給不足となる見込みだ。

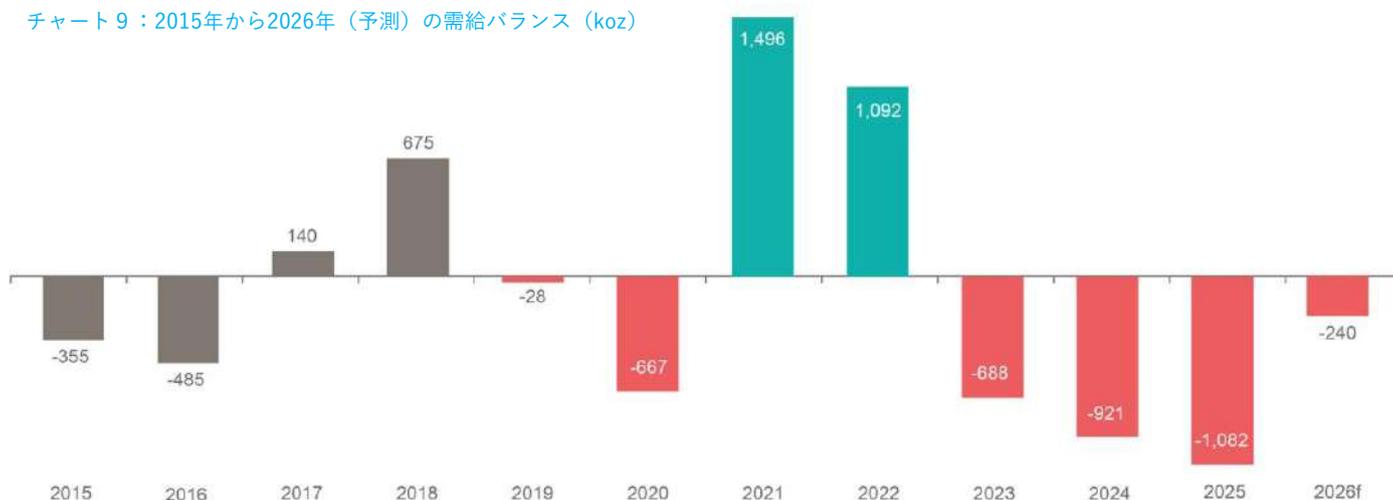
供給

世界のプラチナ鉱山供給は、南アフリカとジンバブエの増産は北米とロシアの減産で相殺され、2026年もほぼ横ばいで 172.7トンとなる見込み。
2026年の供給は従って、予期しない操業停止や仕掛かり在庫の処理ペースの進み具合に左右されるだろう。

南アフリカの大手生産会社は増産になる見込み。イムブラッツでは加工能力が改善されて仕掛かり在庫の処理が進むだろう。2025年第 4 四半期
に稼働開始した Platreef プロジェクトからの生産は、老朽鉱山の減産を補うが、同プロジェクトの初期フェーズは低品位の鉱石処理が計画され
ているため、生産量はそれほど多くならないだろう。第 2 フェーズは約3年かかるとされており、年間およそ 6.2 トンを目指す。

ロシアではノリリスクニッケルが西側諸国の鉱山機器からの切り替えを進めており、それが採掘生産に影響するとともに、長期的に品位が低下
しているため生産量が減る見込み。

チャート 9：2015年から2026年（予測）の需給バランス（koz）



出典：メタルズフォーカスがWPIICのために作成

リサイクル

2026年の自動車触媒のリサイクルは再び増える見通しだが、与信枠の制限や運転資金調達コストの上昇が伸びを抑制するかもしれない。宝飾品リサイクルに関しては、メタル価格が高いまま推移すれば中国が宝飾品スクラップの主な供給地となるだろうが、そのペースは、急増した昨年よりは鈍化するだろう。リサイクル全体では前年比で 10% 増えて 56.8トンの予測。我々は前回の四半期レポート以降に2026年のプラチナ価格予測を引き上げたが、それに伴って宝飾品スクラップについても 10% 増えると予測している。工業分野のプラチナスクラップは前年と変わらない予測。

需要

2026年の世界のプラチナ需要は 8% 減って(-21.1トン) 237.0トンになるだろう。これは、投資需要が前年比で推定 46% 減り 19.4トンになるため、取引所在庫は 3.1トン減るが、ETF では資金の流入と流出が均衡するだろう。投資需要が減少する一部は工業需要(ガラスのプラチナ需要が 11% 増で 66.1トン)によって補われるだろう。

自動車需要

2026年の世界の自動車のプラチナ需要はパワートレインの変化と大型輸送車の減産を背景に 3% 減って 91.5トンになるだろう。世界の普通乗用車生産は 2% 増えて 9480万台となり、2017 年のピークに近づく見込みだが、内燃機関の減産(-7%)、ハイブリッド車の増産(+12%)と BEV の普及などを合わせてエンジン車の生産が 1% 減る予測。2025年は 4% 増えた大型輸送車の生産は、2026年は減少(-1%) に転じるだろう。一般道を走行しない車両は 3% 増える予測だが、自動車のプラチナ需要の低迷を補うには十分ではない。

欧州の自動車のプラチナ需要は、BEV 普及が加速しエンジン車が減少するために 8% 減る予測。大型輸送車の生産は多少増えるが需要の動向にはそれほど影響を与えないだろう。

北米の自動車のプラチナ需要は 3% 減る予測。以前ほどBEV に有利ではない政策に変わったことで、ハイブリッド車が売れる可能性が高い。これがエンジン車の落ち込みを和らげて触媒装置搭載の普通乗用車の生産を安定させるが、大型輸送車の減産が全体のプラチナ需要を押し下げるだろう。

日本の自動車のプラチナ需要は 18% も大幅に減る予測。EVの普及が進む中でハイブリッド車が好調だが、普通乗用車生産の低迷とエンジン車の低迷はそれでは補えないほどになっている。対照的に中国の自動車のプラチナ需要は 2% 増える予測だ。エンジン車の生産が堅調でハイブリッド車の普及が広く需要を支えるが、大型輸送車の減産でそれにも限度があるだろう。国内の自動車産業を強化する政策支援は自動車生産全体を押し上げると期待されているが、BEV が明らかに優遇されている。その他の地域の需要は 5% 増える見込み。インドでは車両生産の改善とEV普及の鈍化によってエンジン車の需要は上向くだろう。また一般道を走行しない車両においても排ガス規制によって PGM を使う触媒装置の装備が必要とされ、プラチナ需要に貢献するだろう。

宝飾品需要

ほとんどの貴金属の宝飾品分野は、2026年もメタル価格の上昇が予測される中で需要の面では世界的に苦戦するだろう。プラチナ宝飾品は過去2年間で増えた需要分のほとんどが消え、8.2トン減って 59.9トンになり、ほぼ5年平均値の枠内に収まるだろう。需要が減る大きな原因はアジアの市場で価格に連動して買い控えが目立つためだが、北米も同様に低迷するだろう。対照的に欧州の需要はほぼ安定しており、インドとその他の市場は多少増えるだろう。

ゴールドよりも割安なプラチナ価格はプラチナ宝飾品需要にとっては有利とも考えられるが、しかし、北米のプラチナの予想価格はゴールドよりも相対的に高く、ホワイトゴールドからプラチナへシフトする需要は限定されるだろう。プラチナ宝飾品への支出額は増えるが、プラチナ価格そのものの上昇は販売数量に影響し、製造量は12% 減の見込み。昨今は好調だった欧州市場も2026年は停滞に転じるだろう。価格にあまり影響を受けない高級ブランドの需要は安定しているが、一般大衆向けの市場は価格の上昇で需要が伸びないと考えられる。

日本のプラチナ宝飾品需要はゴールドとの価格差に引き続き恩恵を受けるが、格段に高くなったプラチナ価格の影響が現れ、2026年の需要は5%減る予測。

中国のプラチナ宝飾品の製造量は36%減って11.5トンの予測。これは、在庫構築が活発に行われた2025年第2四半期がベースになっているためだが、それを考慮しても2026年の需要は2024年を1割下回る予測で、プラチナ価格が上昇して大手小売店の販促も消極的になり、サプライチェーンがゴールド宝飾品にシフトしていることなどが逆風となるだろう。

インドのプラチナ宝飾品の製造量は7%増えて7.8トンを超える見込みだ。最近発表された米国とインド、欧州とインドの間の貿易協定がインドの宝飾品輸出市場を活性化して輸出は正常化するだろう。国内市場は既存も新規も小売業者はこぞって販売網の拡大を行っており、消費者の関心の高まりとともに国内のプラチナ宝飾品製造を支える期待がもたれている。また、ゴールドよりも割安なプラチナの価格と、変動が大きいシルバー価格を背景に小売店ではプラチナ宝飾品の在庫を増やすと考えられる。ダイヤモンド付きの宝飾品や軽量のデザインが好まれる傾向、そして異なるメタルを使うバイカラー宝飾品でゴールドの割合が減っているなどから国内市場は堅調に推移するだろう。しかし、プラチナ価格が高騰すれば逆風になる可能性がある。

工業需要

工業のプラチナ需要は11%増えて66.1トンになる予測。回復を牽引するのはガラス産業で、2025年は急減したが2026年は92%増えて10.6トンになる予測だ。さらに化学産業のプラチナ需要が10%増、水素関連のプラチナ需要が7%増えてそれぞれ19.7トンと2.1トンになる予測。石油産業の需要は17%減って4.8トンから5.8トンになるが、工業のプラチナ需要は全体としては堅調で、周期的な理由で低かった2025年の水準と比べると明らかな回復基調になるだろう。

ガラス

ガラス産業のプラチナ需要は前年比で92%増えて(+5.1トン)10.6トンになり、低かった2025年水準から急速に回復できるだろう。LCDのプラチナ需要は新たな生産能力拡張や閉鎖がなく比較的安定する予測。グラスファイバーの分野は、オフラインだったインドの工場が再稼働し需要の回復につながると考えられる。2026年は需要全体が持ちなおす予測だが、前回の拡張サイクル時に達したような高い水準には及ばない。

化学

2年間の低迷期間を経て、化学のプラチナ需要は幅広い分野で回復基調に転じるだろう。現在建設中で2026年中に完成予定のPX工場は多い。シリコン産業も米国の関税による混乱のピークは過ぎて回復するだろうが、大手シリコンメーカーがプラチナ価格の上昇に対応して値上げを決定したため、それがサプライチェーン川下の業種にとってはまだ経済が不透明なためプレッシャーになる可能性がある。最後に、2026年は肥料生産能力の拡大が予測されておりプラチナ需要も恩恵を受けるだろう。これらをまとめるとプラチナ需要は10%増えて3年ぶりに高い19.7トンになるだろう。

石油

2026年初めは、米国のベネズエラ侵攻やイランをめぐる地政学リスクの再燃によって世界の原油市場の先行きは不透明な雲行きになった。それでも大規模な供給障害のリスクは低く、現時点ではプラチナ需要に大きな影響はないと考えられる。

石油関連のプラチナ需要は、主にガス・ツー・リキッド工場での触媒補充が減るために前年比で 17% 減る予測。接触改質と異性化におけるプラチナの需要は回復する予測だが、地域的には大きな差がある。インドと中東を中心とした新規の生産能力増強はプラチナ触媒の新たな需要を支え、バイオ燃料生産も低いベースからではあるが、需要の支えとなるだろう。しかし、欧州と米国では製油所の閉鎖が続き、需要増の一部を相殺する恐れがある。

医療

2026年の医療のプラチナ需要は 4% 増えて(+0.37トン) 10.3トンになるだろう。これはがんの罹患率が増え腫瘍学への資金も増えることでがん治療の需要が増えることに加え、病院の新設やヘルスケアの拡大に伴って途上国で医療機器の利用が増えることが背景にある。

電子材

ハードディスクドライブメーカーは2026年もフル稼働の状態にあるもののソリッドステートドライブとの競争は続くため、長期的な生産能力拡張に対する慎重な姿勢は変わらない。業界は拡張のための設備投資よりも、生産過程の障害を解消するなど既存の生産能力の最適化を図る戦略をとっており、ストレージ密度の向上に役立つ技術革新を優先して高性能ストレージへの移行を目指す。

同時にAIに関連した半導体産業は、生産能力拡大に向けた投資とサプライチェーンの自給自足努力に牽引されて構造的に成長しており、プラチナ需要の成長を支えている。プラチナ価格の上昇を受けてルテニウムやコバルトなど安価な代替品が検討されているが、全面的にプラチナから移行することは現実的ではないため、電子材の今年のプラチナ需要は 1% 増えるだろう。

水素: 定置型燃料電池とその他

定置型燃料電池とその他のプラチナ需要は2025年に63% 増えて 2.0トンになったが、2026年は前年比7% 増にとどまり 2.1トンなる予測。昨年の需要の成長は、特に欧州では何年にも渡った大規模なPEM型水電解装置プロジェクトの稼働が始まったことが背景にあり、年間稼働率が構造的に変化したわけではなかった。今後は防衛や国内の財政的優先事項に資本が振り向けられると考えられるため、水素関連プロジェクトに対する資金調達には長い時間がかかるようになるだろう。水素プロジェクトの承認はより厳しく選別され、それが足元のプラチナ需要に影響する。地域別に見ると、欧州はPEM型水電解装置設置が続いた波が終わって2026年は減少に転じるだろう。対照的に北米は、メキシコ湾沿いの Plug Power のグリーン水素プロジェクトや、エネルギー省による複数の水素ハブに関連する PEM 関連のプロジェクトなど、すでに建設中のプロジェクトがあるため、2026年は需要が増えると期待されている地域だ。重要なのはこれらのプロジェクトの多くは、すでに資本調達が終わって産業の脱炭素化義務と州レベルの支援を受けている点で、当面の間は、今後の連邦政府の45V 水素生産税控除に関連する変更の影響はないだろう。今後新たなプロジェクトの決定は遅れるかもしれないが、2026年のプラチナ需要は最終投資が決まっていないPEMプロジェクトではなくすでに建設中のプロジェクトの需要に支えられるはずだ。中国も低いベースからではあるが、燃料電池自動車の普及を支援するための再エネPEM 型水電解装置の設置に支えられて成長するだろう。その他の地域の需要増は緩やかになるだろう。

その他

その他の工業分野のプラチナ需要は横ばいで推移する予測。従来のエンジン車の生産は構造的な衰退に直面しているが、ハイブリッド車の急速な普及によってスパークプラグやセンサーのプラチナ需要が、エンジン車のプラチナ需要の低迷を緩和するだろう。ハイブリッド車は頻繁にエンジンを始動させるためにプラチナとイリジウムを使う耐久性の高いスパークプラグが必要なのだ。さらに航空宇宙と海運産業でも高度なスパークプラグの需要が高い。

センサーの分野では、摂氏200度でも安定性を損なわないプラチナの薄膜技術がEV及びハイブリッド車のバッテリー管理における標準であり、安定した需要がある。低コストの温度センサーも登場しているが、バッテリーの熱管理や高性能電子材にとって、プラチナを使うことで確保できる精密な機能は不可欠だ。

投資需要

2026年の世界のプラチナ投資需要は、プラチナ価格の上昇と EFP プレミアムの下落が ETF 保有高と取引所在庫を抑えるため 46% 減るだろう。

世界の個人投資家のプラチナ需要は、日本、中国、北米市場など全ての主要市場で増加が予測され、45% 増えて 16.8 トン、6年ぶりの高い水準になる見込み。北米市場の需要は43% 増えて3年ぶりに 3.7 トンに増えるだろう。プラチナのリースレートも価格も高いまま下がらない中でも、貴金属全体に対する個人投資家の関心は衰えずに投資需要を支えるだろう。

欧州ではプラチナの昨年の強いパフォーマンスと良好なファンダメンタルズのおかげで投資家の関心は続いているが、リースレートの高さがネックとなって商品が入手しづらくなって需要の成長幅を抑えるだろう。

中国では価格の上昇基調と投資家の高い関心が続くために需要の伸びは衰えず投資需要は 17% 増えるだろう。500 グラム以上の大型インゴットの需要も増える見通し。日本でも同様の要因でネットベース2020年来最も多い需要になる予測だ。

インドではゴールドとシルバー価格が記録的な上昇を繰り返し、一部の投資家がプラチナにも分散投資を行ったため、2025年の下半期には注目に値するインゴットの需要となった。しかし、プラチナ投資商品の流通経路は限られ、ほとんどは精錬所や地金ディーラーが直接販売している。インドの需要はその他の地域に含まれているが、2026年のインゴットとコインの需要は前年比で 15% 増えて 0.90 トンになるだろう。

現時点での ETF の保有高に基づいた予測では、2026年のETFの需要は安定する予測だ。欧州と南アフリカからの資金流出は北米への資金流入に補われる。関税にまつわる不透明感や通商拡大法 232 条調査も年内に解決すれば、北米では現物を保有する必要性がなくなってロケーションプレミアムが下がるため、取引所在庫はおよそ 3.1 トン流出すると考えられる。

地上在庫

2026年は 7.5 トンの供給不足となり、地上在庫は年末までに世界の需要の4ヶ月分となる 81.3 トンに減る予測。

WPIC が定義する地上在庫とは、年末の時点での、上場投資信託に依らず、取引所保有ではない、鉱山生産者・精錬所・宝飾製造会社の加工在庫ではなく、消費者が所有していないプラチナの総量をいう。

PLATINUM QUARTERLY Q4 2025

表2：供給、需要、地上在庫のまとめ — 年間比較

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026f	2025/2024 Growth %	2026f/2025 Growth %
Platinum Supply-demand Balance (koz)													
SUPPLY													
Refined Production	6,145	6,130	6,125	6,074	4,990	6,294	5,523	5,606	5,777	5,550	5,553	-4%	0%
South Africa	4,365	4,385	4,470	4,374	3,298	4,678	3,915	3,957	4,133	3,965	4,010	-4%	1%
Zimbabwe	490	480	465	458	448	485	480	507	512	502	518	-2%	3%
North America	390	360	345	357	339	272	265	278	265	209	192	-21%	-8%
Russia	715	720	665	716	704	652	663	674	677	676	637	0%	-6%
Other	185	185	180	169	200	206	200	190	191	198	195	4%	-1%
Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory	+30	+30	+10	+2	-82	-94	+45	+14	+10	+1	+0	-93%	-100%
Total Mining Supply	6,075	6,160	6,135	6,076	4,908	6,200	5,568	5,620	5,787	5,551	5,553	-4%	0%
Recycling	1,860	1,915	1,955	2,157	2,041	2,107	1,811	1,515	1,516	1,664	1,827	10%	10%
Autocatalyst	1,210	1,325	1,430	1,612	1,553	1,619	1,370	1,114	1,143	1,227	1,348	7%	10%
Jewellery	625	560	505	476	422	422	372	331	298	355	391	19%	10%
Industrial	25	30	30	69	66	67	69	71	76	81	88	7%	8%
Total Supply	7,935	8,075	8,090	8,234	6,949	8,307	7,378	7,135	7,303	7,215	7,379	-1%	2%
DEMAND													
Automotive	3,360	3,300	3,115	2,689	2,200	2,466	2,768	3,210	3,107	3,035	2,943	-2%	-3%
Autocatalyst	3,225	3,160	2,970	2,689	2,200	2,466	2,768	3,210	3,107	3,035	2,943	-2%	-3%
Non-road	135	140	145	†	†	†	†	†	†	†	†	N/A	N/A
Jewellery	2,505	2,460	2,245	2,106	1,831	1,953	1,880	1,850	2,008	2,190	1,927	9%	-12%
Industrial	2,020	1,900	2,040	2,203	2,004	2,396	2,156	2,379	2,409	1,915	2,124	-21%	11%
Chemical	560	570	565	802	639	660	672	839	625	575	633	-8%	10%
Petroleum	220	120	235	219	109	169	193	160	159	185	154	16%	-17%
Electrical	195	210	205	144	130	135	106	89	93	97	98	4%	1%
Glass	320	260	275	236	435	713	436	491	692	177	340	-74%	92%
Medical	235	235	235	277	256	267	278	292	308	320	332	4%	4%
Hydrogen Stationary and Other	†	†	†	29	28	17	13	22	40	65	69	63%	7%
Other	490	505	525	495	408	435	459	486	491	496	498	1%	0%
Investment	535	275	15	1,264	1,582	-3	-518	384	701	1,157	625	65%	-46%
Change in Bars, Coins	460	215	280	278	593	349	259	310	192	372	540	94%	45%
China Bars ≥ 500g	†	†	†	16	23	27	90	134	162	165	185	2%	12%
Change in ETF Holdings	-10	105	-245	991	507	-241	-559	-74	296	234	0	-21%	-100%
Change in Stocks Held by Exchanges	85	-45	-20	-20	458	-139	-307	14	50	384	-100	>±300%	N/A
Total Demand	8,430	7,935	7,415	8,262	7,616	6,811	6,287	7,822	8,224	8,297	7,619	1%	-8%
Balance	-485	140	675	-28	-667	1,496	1,092	-688	-921	-1,082	-240	N/A	N/A
Above Ground Stocks	1,740*	1,880	2,555	3,622**	2,955	4,451	5,543	4,855	3,935	2,853	2,613	-27%	-8%

出典：メタルズフォーカス（2019年から2026年予測）、SFA（オックスフォード）社（2016年から2018年）

注：

1. 地上在庫：*128.8トン 2012年12月31日時点（SFA（オックスフォード）社）。**113.5トン 2018年12月31日時点（メタルズフォーカス社）。
2. †一般道路を通行する車両以外の自動車需要は自動車触媒需要に含まれる。
3. メタルズフォーカス社、SFA（オックスフォード）社のデータは必ずしも同じ比較対象ベースを使っているわけではない。
4. 2019年以前のSFA（オックスフォード）社のデータはそれぞれ単独で5koz単位で四捨五入。

PLATINUM QUARTERLY Q4 2025

表3：需要と供給のまとめ－四半期ごとの比較

	Q4 2023	Q1 2024	Q2 2024	Q3 2024	Q4 2024	Q1 2025	Q2 2025	Q3 2025	Q4 2025	Q4'25/Q4'24 Growth %	Q4'25/Q3'25 Growth %
Platinum Supply-demand Balance (koz)											
SUPPLY											
Refined Production	1,531	1,228	1,541	1,459	1,549	1,101	1,446	1,414	1,590	3%	12%
South Africa	1,143	796	1,127	1,049	1,161	711	1,044	1,038	1,172	1%	13%
Zimbabwe	133	132	126	132	121	114	137	119	131	8%	10%
North America	71	73	59	59	74	49	58	50	53	-29%	5%
Russia	136	178	181	172	146	180	158	156	183	25%	17%
Other	48	48	48	48	47	47	49	51	51	7%	0%
Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory	-24	+24	+35	-24	-25	-19	+22	-29	+26	N/A	N/A
Total Mining Supply	1,507	1,252	1,576	1,435	1,524	1,082	1,468	1,385	1,616	6%	17%
Recycling	361	376	390	370	381	383	426	416	439	15%	5%
Autocatalyst	257	275	299	282	287	289	316	306	317	10%	3%
Jewellery	85	84	72	68	74	75	90	89	101	37%	14%
Industrial	18	17	19	20	20	19	20	21	21	2%	-2%
Total Supply	1,868	1,628	1,966	1,805	1,905	1,465	1,894	1,801	2,055	8%	14%
DEMAND											
Automotive	817	819	786	735	767	769	779	729	758	-1%	4%
Autocatalyst	817	819	786	735	767	769	779	729	758	-1%	4%
Non-road	†	†	†	†	†	†	†	†	†	N/A	N/A
Jewellery	472	484	507	494	523	526	669	488	506	-3%	4%
Industrial	563	654	674	544	537	369	512	506	528	-2%	4%
Chemical	133	181	170	139	136	159	146	126	143	6%	14%
Petroleum	39	40	40	40	40	46	46	46	46	16%	0%
Electrical	22	22	23	24	24	22	24	25	26	7%	1%
Glass	160	210	230	131	122	-78	82	91	82	-32%	-10%
Medical	72	74	77	77	80	78	80	80	82	3%	2%
Hydrogen Stationary and Other	10	7	8	11	13	17	11	15	22	63%	40%
Other	127	120	125	122	124	124	123	122	127	2%	4%
Investment	-81	113	459	-230	359	459	-56	291	463	29%	59%
Change in Bars, Coins	58	60	14	65	54	69	116	68	119	122%	74%
China Bars ≥ 500g	48	53	41	30	38	35	47	34	49	30%	43%
Change in ETF Holdings	-171	11	444	-300	142	-6	97	-169	312	121%	N/A
Change in Stocks Held by Exchanges	-16	-11	-40	-25	126	361	-317	358	-18	N/A	N/A
Total Demand	1,771	2,070	2,426	1,542	2,186	2,123	1,904	2,015	2,255	3%	12%
Balance	97	-442	-460	262	-281	-658	-10	-214	-200	N/A	N/A

出典：メタルズフォーカス（2023年から2025年予測）

注：

1. † 一般道路を通行する車両以外の自動車需要は自動車触媒需要に含まれる。

PLATINUM QUARTERLY Q4 2025

表4：需要と供給のまとめ—半年ごとの比較

	H2 2023	H1 2024	H2 2024	H1 2025	H2 2025	H2'25/H2'24 Growth %	H2'25/H1'25 Growth %
Platinum Supply-demand Balance (koz)							
SUPPLY							
Refined Production	2,929	2,769	3,009	2,547	3,004	0%	18%
South Africa	2,127	1,923	2,210	1,754	2,211	0%	26%
Zimbabwe	265	258	254	251	251	-1%	0%
North America	136	133	132	107	103	-22%	-4%
Russia	304	359	318	338	339	7%	0%
Other	96	96	95	97	101	7%	5%
Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory	-25	+59	-49	+3	-2	N/A	N/A
Total Mining Supply	2,904	2,828	2,959	2,550	3,002	1%	18%
Recycling	724	766	750	809	855	14%	6%
Autocatalyst	529	574	569	604	622	9%	3%
Jewellery	160	156	142	165	190	34%	15%
Industrial	36	36	40	39	42	5%	6%
Total Supply	3,628	3,593	3,710	3,359	3,856	4%	15%
DEMAND							
Automotive	1,585	1,606	1,501	1,548	1,487	-1%	-4%
Autocatalyst	1,585	1,606	1,501	1,548	1,487	-1%	-4%
Non-road	†	†	†	†	†	N/A	N/A
Jewellery	916	991	1,017	1,196	994	-2%	-17%
Industrial	1,002	1,328	1,081	880	1,034	-4%	17%
Chemical	260	350	274	305	270	-2%	-12%
Petroleum	77	80	80	93	93	16%	0%
Electrical	44	45	48	46	51	6%	11%
Glass	216	440	252	4	173	-31%	>±300%
Medical	144	151	157	157	162	3%	3%
Hydrogen Stationary and Other	15	16	24	28	37	53%	33%
Other	245	246	246	247	248	1%	0%
Investment	-33	571	129	403	754	>±300%	87%
Change in Bars, Coins	141	74	119	185	187	58%	1%
China Bars ≥ 500g	83	94	68	82	83	23%	1%
Change in ETF Holdings	-270	455	-159	91	143	N/A	57%
Change in Stocks Held by Exchanges	12	-51	101	44	340	236%	>±300%
Total Demand	3,470	4,496	3,728	4,027	4,270	15%	6%
Balance	159	-902	-18	-668	-413	N/A	N/A

出典：メタルズフォーカス社（2023年から2025年予測）

注：

1. †一般道路を通行する車両以外の自動車需要は自動車触媒需要に含まれる。

PLATINUM QUARTERLY Q4 2025

表5：地域毎の需要 — 各年と四半期比較

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026f	2025/2024 Growth %	2026f/2025 Growth %	Q4 2024	Q1 2025	Q2 2025	Q3 2025	Q4 2025	
Platinum Gross Demand (koz)																			
Automotive	3,350	3,290	3,115	2,689	2,200	2,466	2,768	3,210	3,107	3,035	2,943	-2%	-3%	767	769	779	729	758	
North America	410	390	390	311	268	340	411	447	487	450									
Western Europe	1,630	1,545	1,340	1,355	979	921	976	1,168	1,031	950									
Japan	450	435	425	285	223	248	247	291	287	297									
China	195	230	220	162	254	364	430	544	514	537									
India	170	175	200	††	††	††	††	††	††	††									
Rest of the World	495	515	540	576	476	593	705	759	788	801									
Jewellery	2,505	2,460	2,245	2,106	1,831	1,953	1,880	1,850	2,008	2,190	1,927	9%	-12%	523	526	669	488	506	
North America	265	280	280	341	277	409	448	438	445	470									
Western Europe	240	250	255	237	196	260	301	319	343	360									
Japan	335	340	345	372	316	298	333	338	376	383									
China	1,450	1,340	1,095	871	832	703	484	408	412	578									
India	145	175	195	109	59	123	171	203	266	240									
Rest of the World	70	75	75	176	151	159	144	144	166	159									
Chemical	560	570	565	802	639	660	672	839	625	575	633	-8%	10%	136	159	146	126	143	
North America	50	50	50	98	103	109	110	121	97	125									
Western Europe	110	115	105	124	112	115	106	112	105	115									
Japan	15	15	15	66	62	65	66	61	58	59									
China	225	220	215	299	205	221	234	360	184	55									
Rest of the World	160	170	180	215	157	149	155	185	181	220									
Petroleum	220	120	235	219	109	169	193	160	159	185	154	16%	-17%	40	46	46	46	46	
North America	90	55	55	30	5	32	44	44	56	46									
Western Europe	10	5	20	14	11	18	30	22	21	10									
Japan	0	-20	5	7	6	12	7	6	6	6									
China	80	45	10	66	35	39	26	24	17	14									
Rest of the World	40	35	145	103	52	67	86	64	60	110									
Electrical	195	210	205	144	130	135	106	89	93	97	98	4%	1%	24	22	24	25	26	
North America	10	15	15	38	35	35	28	24	25	26									
Western Europe	10	10	10	27	23	25	20	16	17	18									
Japan	15	15	15	20	16	17	14	12	12	13									
China	80	90	85	28	31	31	23	19	20	20									
Rest of the World	80	80	80	31	25	26	22	18	19	21									
Glass	320	260	275	236	435	713	436	491	692	177	340	-74%	92%	122	-78	82	91	82	
North America	10	5	5	-67	-25	4	15	33	18	10									
Western Europe	5	5	20	59	39	6	26	-90	6	1									
Japan	-10	-10	0	-37	-63	7	-150	5	-9	-183									
China	225	165	120	173	333	731	453	541	751	306									
Rest of the World	90	95	130	108	150	-36	92	1	-73	43									
Medical	235	235	235	277	256	267	278	292	308	320	332	4%	4%	80	78	80	80	82	
Other industrial	490	505	525	495	408	435	459	486	491	496	498	1%	0%	124	124	123	122	127	
Hydrogen Stationary & Other	†	†	†	29	28	17	13	22	40	65	69	63%	7%	13	17	11	15	22	
Bar & Coin Investment	460	215	280	278	593	349	259	310	192	372	540	94%	45%	54	69	116	68	119	
North America				155	234	256	258	169	115	84									
Western Europe				52	75	61	44	24	32	25									
Japan				46	240	-26	-114	54	-24	-1									
China				15	23	26	38	52	64	239									
Rest of the World				9	21	33	33	11	5	26									
China Bars ≥ 500g				16	23	27	90	134	162	165	185	2%	12%	38	35	47	34	49	
ETF Investment	-10	105	-245	991	507	-241	-559	-74	296	234	0	-21%	-100%	142	-6	97	-169	312	
North America				125	524	-6	-102	-61	165	510									
Western Europe				508	237	56	-314	-99	163	-221									
Japan				-13	58	-23	-28	12	-6	48									
Rest of the World				370	-312	-268	-116	74	-26	-102									
Change in Stocks Held by Exchanges	85	-45	-20	-20	458	-139	-307	14	50	384	-100	>±300%	N/A	126	361	-317	358	-18	
Investment	535	275	15	1,264	1,582	-3	-518	384	701	1,157	625	65%	-46%	359	459	-56	291	463	
Total Demand	8,410	7,925	7,415	8,262	7,616	6,811	6,287	7,822	8,224	8,297	7,619	1%	-8%	2,186	2,123	1,904	2,015	2,255	

出典：メタルズフォーカス社（2019年から2026年予測）、SFA（オックスフォード）社（2016年から2018年）

注：

- † 水素と定置型燃料電池の需要は2019年以前はその他の工業需要に含まれる。
- †† インドの自動車需要はその他の地域に含まれる。
- メタルズフォーカス社、SFA（オックスフォード）社のデータは必ずしも同じ比較対象ベースを使っているわけではない。
- 2019年以前年のSFA（オックスフォード）社のデータはそれぞれ単独で5koz単位で四捨五入。

PLATINUM QUARTERLY Q4 2025

表6：地域毎のリサイクル供給 — 各年と四半期比較

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026f	2025/2024 Growth %	2026f/2025 Growth %	Q4 2024	Q1 2025	Q2 2025	Q3 2025	Q4 2025
Platinum recycling supply (koz)																		
Automotive	1,210	1,325	1,420	1,612	1,553	1,619	1,370	1,114	1,143	1,227	1,348	7%	10%	287	289	316	306	317
North America				522	486	490	458	311	327	359								
Western Europe				792	823	842	687	580	585	615								
Japan				137	92	114	81	73	64	63								
China				35	68	77	59	53	72	83								
Rest of the World				126	83	95	86	96	95	108								
Jewellery	625	560	505	476	422	422	372	331	298	355	391	19%	10%	74	75	90	89	101
North America				3	3	3	3	3	3	3								
Western Europe				4	4	3	4	4	4	4								
Japan				187	162	160	165	136	107	110								
China				276	248	250	195	183	179	233								
Rest of the World				5	5	5	6	5	5	5								
Industrial	25	30	30	69	66	67	69	71	76	81	88	7%	8%	20	19	20	21	21
North America				15	12	12	13	12	15	18								
Western Europe				11	10	11	11	13	15	17								
Japan				34	34	34	34	34	34	34								
China				7	7	8	9	9	10	11								
Rest of the World				2	2	2	2	2	2	2								

出典：メタルズフォーカス社（2019年から2026年予測）、SFA（オックスフォード）社（2016年から2018年）

PLATINUM QUARTERLY Q4 2025

表7：供給、需要、地上在庫のまとめ — 年間比較 (5 ページ表1 をトン表示に換算したもの)

	2022	2023	2024	2025	2026f	2025/2024 Growth %	2026f/2025 Growth %	Q3 2025	Q4 2025
Platinum Supply-demand Balance (tonnes)									
SUPPLY									
Refined Production	172	174	180	173	173	-4%	0%	44	49
South Africa	122	123	129	123	125	-4%	1%	32	36
Zimbabwe	15	16	16	16	16	-2%	3%	4	4
North America	8	9	8	7	6	-21%	-8%	2	2
Russia	21	21	21	21	20	0%	-6%	5	6
Other	6	6	6	6	6	4%	-1%	2	2
Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory	1	0	0	0	0	-93%	-1	-1	+1
Total Mining Supply	173	175	180	173	173	-4%	0%	43	50
Recycling	56	47	47	52	57	10%	10%	13	14
Autocatalyst	43	35	36	38	42	7%	10%	10	10
Jewellery	12	10	9	11	12	19%	10%	3	3
Industrial	2	2	2	3	3	7%	8%	1	1
Total Supply	229	222	227	224	230	-1%	2%	56	64
DEMAND									
Automotive	86	100	97	94	92	-2%	-3%	23	24
Autocatalyst	86	100	97	94	92	-2%	-3%	23	24
Non-road	†	†	†	†	†	N/A	N/A	†	†
Jewellery	58	58	62	68	60	9%	-12%	15	16
Industrial	67	74	75	60	66	-21%	11%	16	16
Chemical	21	26	19	18	20	-8%	10%	4	4
Petroleum	6	5	5	6	5	16%	-17%	1	1
Electrical	3	3	3	3	3	4%	1%	1	1
Glass	14	15	22	6	11	-74%	92%	3	3
Medical	9	9	10	10	10	4%	4%	2	3
Hydrogen Stationary and Other	0	1	1	2	2	63%	7%	0.5	0.7
Other	14	15	15	15	15	1%	0%	4	4
Investment	-16	12	22	36	19	65%	-46%	9	14
Change in Bars, Coins	8	10	6	12	17	94%	45%	2	4
China Bars ≥ 500g	3	4	5	5	6	2%	12%	1	2
Change in ETF Holdings	-17	-2	9	7	0	-21%	-100%	-5	10
Change in Stocks Held by Exchanges	-10	0	2	12	-3	>±300%	N/A	11	-1
Total Demand	196	243	256	258	237	1%	-8%	63	70
Balance	34	-21	-29	-34	-7	N/A	N/A	-7	-6
Above Ground Stocks	**172	151	122	89	81	-27%	-8%		

出典：メタルズフォーカス (2022年から2026年予測)

注:

1. 地上在庫：***113.5トン 2018年12月31日時点 (メタルズフォーカス)
2. †道路を通行する車両以外の自動車需要は自動車触媒需要に含まれる。
3. 予測は全て最新データに基づくが、新たな四半期レポートのデータに応じて修正されることがある。
4. WPICは2013年、および2014年第1四半期および同年第2四半期の予測は発表していない。しかし2014年第3四半期から2022年第2四半期のデータは過去のプラチナ四半期レポートに掲載されており、それらについてはWPICウェブサイトを参照 (無料)。
5. 2022年第3四半期以降の四半期予測と2022年上半年期以降の6ヶ月予測は、23ページの表3と24ページの表4にそれぞれ含まれている (供給、需要、地上在庫)。
6. 26ページの表6の地域毎のリサイクル供給の詳細データは2019年からのものによる。

用語集

Above ground stocks 地上在庫

年末の時点での、上場投資信託に依らず、取引所保有ではない、鉱山生産者・精錬所・宝飾製造会社のしかかり・加工在庫ではなく、消費者が所有していないプラチナの総量。通常は供給で賄えない需要を容易に補充できる、あるいは過剰な供給分を即座に流通させられる、保管庫にある未公表のメタルをいう。

ADH アルカン脱水素化

飽和炭化水素であるアルカンから触媒などによって不飽和炭化水素であるアルケンを生成する化学反応で、ブタン脱水素(BDH)とプロパン脱水素(PDH)がある。

BDH ブタン脱水素

触媒を使ってイソブタンからイソブチレンを生成する化学反応。

BEV バッテリー電気自動車

充電できるバッテリーを利用する電気モーターを推進力として利用する電気自動車。

Bharat バラート (排出基準)

インド政府が、エンジン車及び点火式エンジンから排出される大気汚染物質を軽減・規制するために導入した排ガス基準 (BSES)。

Bharat Stage VI standard (BS-V, BS-VI) バラートステージ V, VII 基準

バラートステージ VI 基準は「Euro 6」に準じ、2018年から2020年にかけて導入された。

Catalysed vehicle 触媒装置付き自動車

触媒装置付き自動車とは排気システムに触媒コンバーターを備えた自動車で、一酸化炭素(CO)、窒素酸化物(NO_x)、炭化水素(HC)などの有害物質を、触媒装置の中で二酸化炭素(CO₂)、窒素(N₂)、水蒸気(H₂O)など、より害の少ないカスに転換して排出する。化石燃料を燃焼する純粋なエンジン車及びハイブリッド車の両方が触媒装置を搭載する。

China Bars ≥ 500g 中国の500グラム以上のインゴット

中国で売られる500グラム以上の大型のインゴットのネットベースの需要で、実需ユーザーが購入したインゴットは含まない。

China Vehicle Emission Standards 中国の排ガス基準

中国の排ガス基準は国レベルでは生態環境部が、地方レベルでは環境保護局の管轄となる。中国の多くの都市や省では新しい基準を先行して導入することが多い。

China 6 「国6」 (排出基準)

2016年12月に中国政府が全国の普通乗用車に対して定めた、それぞれ2020年7月(「国6a」)と2023年7月(「国6b」)から適応される排出基準。排気管から排出される排気ガスと燃料蒸発ガスの基準については「Euro 6」と米「Tier 2」基準に準じている。「国6b」基準では、EU RDE 規制(「Euro 6d TEMP」)を基本に、改良と修正を加えた路上走行試験を義務化した。

China VI 「国VI」 (排出基準)

2023年7月よりディーゼルで走る大型輸送車に適用される排出基準。

Compounds (Platinum based) プラチナベースのコンパウンド

プラチナと他の物質を合わせ、特定の化学反応を促進するため、触媒、メッキ、金属3Dプリンティング、その他の製造過程に使われる。

Diesel oxidation catalyst (DOC) ディーゼル酸化触媒

ディーゼル燃料の不完全燃焼による有害な一酸化炭素や炭化水素を、無害な二酸化炭素と水に変換する触媒。

Diesel particulate filter (DPF) and catalysed diesel particulate filter (CDPF) ディーゼル微粒子フィルター、触媒被覆DPF

DPF はディーゼル排気ガス中のススを物理的に捕える装置で、CDPF はススの酸化と除去を促進するために PGM 触媒をコーティングした装置。これらはしばしば同義語として用いられる。

Electrolysis of water 水の電解

水の電解装置は、電流を利用して水の分子を水素と酸素に分解する装置。電解を行う最小単位のデバイスであるセル、それを複数重ねたスタック、これらと周辺の機器を合わせたシステムからなる。

Emissions Legislation 排気ガス規制

一酸化炭素(CO)、粒子状物質(PM)、炭化水素、窒素酸化物(NO_x)など、車が排出する有害ガス処理を行う浄化触媒システムの搭載を義務化した規制で、地域や国ごとに異なる基準があり、最小排出目標値や適応期限が異なる。

EPA 環境保護庁

Environmental 米連邦政府の機関として米国の自動車排出ガス規制を管轄する。

EREV レンジエクステンダー式電気自動車

ガソリンエンジンを搭載するバッテリー電気自動車だが、エンジンはプラグインハイブリッド車のように車輪の駆動動力ではなく、航続距離を伸ばすためにバッテリーの充電用発電機として機能する。

ETF 上場投資信託

指数やコモディティ、資産バスケットに連動するように運用される投資信託の一種。プラチナ ETF は現物プラチナ 上昇している取引所が承認した保管庫にある (LPPM グッドデリバリーバー) が原資となっている。

Euro 6 emission standards Euro 6 排ガス規制

2014年から2015年にかけてEU圏で導入された普通乗用車が対象の排ガス規制。基準値は変わらないものの、現在は測定法がより厳格になった Euro 6 a、b、c、d、Euro 6d-Temp が使われている。CO₂ については試験室ベースの WLTP が、NO_x についてはRDEが導入されている。

Euro VI emission standards Euro VI 排ガス規制

2013年から2014年にかけてEU圏で導入された大型輸送車が対象の排ガス規制。のちに同様の基準値が他国に採用された。

Euro 7 emission standards Euro 7 排ガス規制

Euro 7 排ガス規制は、普通乗用車と小型商用車の排気ガスについては現行の Euro 6 基準値のままだが、粒子状物質の基準についてはより厳格化され、さらに走行距離と耐用年数においても強化される。2027年初頭から段階的に導入される予定。

Euro VII emission standards Euro VII 排ガス規制

Euro VII 排ガス規制は大型輸送車に対して、これまで規制されてこなかった亜酸化窒素(N₂O)を含む各種の有害物質についてより厳格な基準値を定めるとともに、耐用年数についても強化する。2027年初頭から段階的に導入される見込み。

FCM 燃料消費モニタリング

車両の使用期間中の実際の燃料消費を記録することで、「Euro 6d」排ガス規制では2020年1月1日以降に生産される全ての車、および2021年1月1日の全ての新規登録車に課される。

FCEV 燃料電池自動車

バッテリーの代わりに、水素を燃料とするプラチナを含む燃料電池で発電することで走行する電気自動車。

Forward price 渡価格

将来のある時点のコモディティの価格で、通常はスポット価格にリスクフリーの金利及び保有コストを含める。

GTL ガス・ツー・リキッド

天然ガスからガソリンやディーゼル燃料などの液体燃料を合成する技術。

HDD ハードディスクドラ

磁気ディスクを使ってデジタルデータを記憶させる装置。

HDV 重量車

米国の排ガス規制における車両区分。日本では大型トラックやバスに相当。

HEV ハイブリッド電気

ハイブリッド車に搭載されているエンジンは車輪を駆動するだけでなく、発電してバッテリーの充電に使うことも、回生ブレーキによってバッテリーに電力を蓄えることもできる。電気だけの航続距離は通常数キロメートルにとどまる。

Hydrogen Production Methods 水素の生産方法

近年は異なる方法で生産された水素を色分けして区別するようになった。しかし、まだ国際的に承認された基準はなく、あくまでも参考呼称。以下の色分けはさまざまな生産方法を含めた一般的なもの。

- ホワイト水素 - 天然水素あるいは産業製造過程の副産物として生じる水素
- ブラック・ブラウン水素 - 石炭(ブラック)、褐炭(ブラウン)を原料にする水素
- グレー水素 - 化石燃料の改質による水素
- ターコイズ水素 - メタンの熱分解による水素
- ブルー水素 - 化石燃料の改質と二酸化炭素回収を組み合わせて生産される水素
- グリーン水素 - 再生可能エネルギーを使う水電解による水素
- ピンク水素 - 原子力発電を使って生産される水素

ICE 内燃機関

燃料を燃焼させることで機械の動力源とする熱機関

IoT モノのインターネット

あらゆるモノがインターネットを通じて相互に通信する仕組み。

ISC サービス稼働適合性

自動車の排ガス基準に対する適合を実際の走行条件下でも確認する評価。

Jewellery alloys 宝飾品の合金

プラチナ宝飾品の純度は常に千分率で表される。例えば最も一般的な pt950 とは、金属の 95% が純プラチナで、残りはコバルトや銅など他の金属が使われていることを意味する。プラチナ宝飾品としての認定や刻印をするための純度の基準は通常各市場で決められている。

Jewellery demand 宝飾品の需要

未加工のプラチナが半製品あるいは完成品の宝飾品に初めて転換された段階の需要。

Koz トロイオンス

1 kozは1000トロイオンス、1 トロイオンスは約31.1キログラム。

LCD 液晶ディスプレイ

2枚のガラスあるいはプラスチック層の間に液晶を挟み込み、電界によって光の透過を制御する平面のパネルディスプレイ。

LDV 軽量車両

米国の排ガス規制における車両区分。日本では普通乗用車と小型商用車にほぼ相当する。

NEDC New European Driving Cycle

国連欧州経済委員会(UNECE)が管理する国連車両規則101号に定められ、欧州で乗用車の排出ガス量や燃料評価に用いるテストサイクルで、随時更新され、より厳格なWLTPに置き換えられた。

Net demand ネットの需要

リサイクルで回収される供給を差し引きしたネットの新たな需要。

Non-road engines 非道路移動機械用エンジン

建設現場や農場、鉱山の採掘現場の車両に使われるディーゼルエンジンでエンジンの構造や排ガス制御技術は、一般道を走行するディーゼル大型輸送車と似ている。

Ounce conversion オンスとトン・キロ

1 トンは1000キログラム、32.151 トロイオンス。

Oz トロイオンス

貴金属に通常使われる重量の単位で1 トロイオンスは 31.103 グラム。

PDH プロパン脱水素

プロパンからプロピレンを製造するプロセス。

PEM Electrolyser Technology 固体高分子型水電解技術

水電解技術の主な4つの技術の一つで、酸素極(アノード)の電極には酸化イリジウム、水素極(カソード)の電極にはプラチナが使われる。輸送層にはプラチナがコーティングされた焼結多孔質チタン、双極板にもプラチナが使われる。

PGMs 白金族金

ルテニウム(Ru)、ロジウム(Rh)、パラジウム(Pd)、オスミウム(Os)、イリジウム(Ir)、プラチナ(Pt)の6つの元素の総称。[訳者加筆]

PHEV プラグインハイブリッド電気自動車

外部電源に接続して充電できるバッテリーと、車輪を直接駆動あるいはバッテリーも充電できるエンジンを搭載する。電気だけの航続距離は通常30キロから80キロ。

PMR 貴金属精錬所

鉱石やスクラップから貴金属を取り出して純度を高める施設[訳者加筆]。

Pricing benchmarks 指標価格

流動性の高い市場で取引されるコモディティの価格で、買い手と売り手の参考基準となる。プラチナの場合は、通常、ロンドン金属取引所(LME)が公表する、オークション方式による LBMA プラチナ価格。

Producer inventory 生産者在庫

需給バランスにおいて、生産者在庫の変化は精錬メタル生産と販売したメタルの差となる。

PX パラキシレン

原油から得られる石油ナフサを、プラチナ触媒を使って転化させて得られる化学物質。パラキシレンはポリエステル製造に利用するテレフタル酸の生産に用いられる。

Refined production 精錬生産

精錬所では、最低でも純度 99.95% のプラチナのインゴット、スポンジ、粒子を生産する。

RDE 実走行排出試験

走行中の車両が排出する NO_x などの有害物質を測定し、試験室での検査に加えて実施される試験。2017年9月から新型車に対して導入され、2019年9月からは全ての登録車に対しても課されている。

Secondary supply リサイクル供給

未使用の在庫も含むプラチナを使った製品を回収して取り出されたプラチナは供給の一部として扱われるが、製造過程で発生する生産スクラップは含まない。自動車触媒及び宝飾品のリサイクルはスクラップが出た国での統計となり、実際にプラチナの精錬が行われる国とは異なる場合がある。

Selective catalytic reduction (SCR) 選択式還元触媒

ディーゼルエンジンの排気流に液体還元剤(尿素)を噴射する排気ガス制御技術で、使用する尿素は AdBlue という商品名で知られる。通常 SCR ユニットと、プラチナを含むディーゼル酸化触媒(DOC)を汎用する。

SGE 上海黄金交易所

2002年設立の中国唯一の公式貴金属取引所。[訳者加筆]

SSD ソリッドステートドライブ

メモリチップを用いるデータ記憶装置でフラッシュメモリを利用する。

Stage 4 regulations ステージ4規制

非道路移動機械(Non-road mobile machinery: NRMM) はステージ1からステージ5まで段階的に厳格になる規定が設けられている。2018年5月に見直され、2020年、2021年に向けた期限が設定された。業界団体による施行延期要請についてはまだ未定。[米国のEPAが定める排ガス規制(訳者加筆)]

Three-way catalyst 三元触媒

ガソリン車において炭化水素、一酸化炭素、窒素酸化物を除去するために用いられる。パラジウムが主体の触媒だが、代替として一部プラチナが使われるようになっており、またロジウムも使われる。

Tri-metallic catalyst トリメタル触媒

自動車の排ガス制御において、3種類の白金族金属であるプラチナ(Pt)、パラジウム(Pd)、ロジウム(Rh)を組み合わせた浄化触媒装置。

US Vehicle Emission Standards 米国の排ガス基準

米国の自動車およびエンジンに対する排ガス規制は「Clean Air Act (CAA)」に基づき、環境保護庁(EPA)の管轄下にある。カリフォルニア州は独自の排ガス規制を導入する権利を有し、同州のEPA下にあるカリフォルニア州大気資源局(CARB)がエンジン及び車両の排ガス規制を策定する。車両は毎年「bin」と呼ばれる異なる排出クラスに認証され、フリート全体の平均排出量が規制の対象となる。

Tier 3 Tier3規制

米EPAによる排ガス規制で2025年までの共通目標を定めた。2017年～2025年式車を対象とし、カリフォルニア州基準と合致[訳者加筆]。

Tier 4 stage Tier4ステージ規制

EUにおける非道路移動機械の排ガス規制はステージ1からステージ5まで段階的に厳格になる規定が設けられている。2018年5月に見直され、2020年、2021年に向けた期限が設定された。業界団体による施行延期要請についてはまだ未定。

Washcoat ウォッシュコート層

自動車触媒装置のブロックあるいは部材内部に、セラミックなどの不活性基材の上にコーティングされる層でプラチナなどの活性触媒を含む。

WIP しかかり在庫あるいは加工在庫

生産者において製錬及び精錬過程にある段階の未完成の製品在庫 [訳者加筆]

WLTP 乗用車などの国際調和燃費・排出ガス試験方法

有害物質の排出量及び燃料消費量を測定するための試験室検査で、EUでは2017年9月より新型車に、2018年9月よりNEDCに代わる方法として導入された。日本では2016年10月より導入 [訳者加筆]

WPIC ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル

免責条項: 当出版物は一般的なもので、唯一の目的は知識を提供することである。当出版物の発行者、ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルは、世界の主要なプラチナ生産会社によってプラチナ投資需要発展のために設立されたものであるその使命は、それによって行動を起こすことができるような見識と投資家向けの商品開発を通じて現物プラチナに対する投資需要を喚起すること、プラチナ投資家の判断材料となりうる信頼性の高い情報を提供すること、そして金融機関と市場参加者らと協力して投資家が必要とする商品や情報ルートを提供することである。

当出版物に掲載された2019年からメタルズフォーカス社によるリサーチは© Metals Focus Copyrightが著作権を有するものである。当出版物に掲載されたデータの全ての著作権およびその他の知的財産権はメタルズフォーカス社に属し、発行者への第三者コンテンツ提供者である同社のみがその情報及びデータの中の知的財産権の登録をする権利がある。メタルズフォーカス社の分析、データ、その他の関連情報は掲載時点でのメタルズフォーカス社の判断を表したものであり、予告なく変更されることがある。当該データ及び解説のいかなる部分もメタルズフォーカス社の書面による承諾なしに資本市場（資金調達）のために使用することはできない。

当出版物に掲載された2019年以前のSFA社によるリサーチは© SFA Copyrightが著作権を有するものである。

当出版物は有価証券の売買を提案または勧誘するものではなく、またそのような提案または勧誘とみなされるべきものでもない。当出版物によって、出版者およびコンテンツ提供者は、それが明示されているか示唆されているかにかかわらず、有価証券あるいは商品取引の注文を発注、手配、助言、仲介、奨励する意図はない。当出版物は税務、法務、投資に関する助言を提案する意図はなく、当出版物のいかなる部分も投資商品及び有価証券の購入及び売却、投資戦略あるいは取引を推薦するものとみなされるべきでない。発行者、コンテンツ提供者はブローカー・ディーラーでも、また2000年金融サービス市場法、Senior Managers and Certifications Regime及び金融行動監視機構を含むアメリカ合衆国及びイギリス連邦の法律に登録された投資アドバイザーでもなく、及びそのようなものと称していることもない。

当出版物は特定の投資家を対象とした、あるいは特定の投資家のための専有的な投資アドバイスではなく、またそのようなものとみなされるべきではない。どのような投資も専門の投資アドバイザーに助言を求めた上でなされるべきである。いかなる投資、投資戦略、あるいは関連した取引もそれが適切であるかどうかの判断は個人の投資目的、経済的環境、及びリスク許容度に基づいて個々人の責任でなされるべきである。具体的なビジネス、法務、税務上の状況に関してはビジネス、法務、税務及び会計アドバイザーに助言を求めるべきである。

当出版物は信頼できる情報に基づいているが、出版者とコンテンツ提供者が、情報の正確性及び完全性を保証するものではない。当出版物は業界の継続的な成長予測に関する供述を含む、将来の予測に言及している。出版者とメタルズフォーカス社は当出版物に含まれる、過去の情報以外の全ての予測は、実際の結果に影響を与えるリスクと不確定要素を伴うことを認識しているが、出版者とコンテンツ提供者は、当出版物の情報に起因して生じるいかなる損失あるいは損害に関して、一切の責任を負わないものとする。

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルのロゴ、商標、及びトレードマークは全てワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルに帰属する。当出版物に掲載されているその他の商標はそれぞれの商標登録者に帰属する。発行者は明記されていない限り商標登録者とは一切提携、連結、関連しておらず、また明記されていない限り商標登録者から支援や承認を受けていることはなく、また商標登録者によって設立されたものではない。発行者によって非当事者商標に対するいかなる権利の請求も行われたい。

© 2026 World Platinum Investment Council Limited. 禁無断転載。ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルの名称、ロゴ、及び略称WPICはワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルの登録商標である。当出版物のいかなる部分もワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルおよび著者の許可なくして、いかなる方法によっても複製および配布されてはならない。